

国立国会図書館



館長対談 第6回
 文字・活字文化推進機構会長 福原義春氏
 読書の力、本の力

開館60周年記念貴重書展記念講演会
 「本の姿」 藤本孝一氏

電子展示会「ブラジル移民の100年」
 -資料の収集から電子展示会の提供まで

2009.3
 No.576

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
03(3506)3301(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:00
	※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	後日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求時間	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00	オンライン複写受付	月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30
	※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。		

■見学のお申込み／国立国会図書館 資料提供部 利用者サービス企画課 03(3581)2331 内線26111

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求時間	月～土曜日 10:00～17:15	後日複写受付	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	オンライン複写受付	月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声・FAXサービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
開館時間 火～日曜日 9:30～17:00
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

支部東洋文庫

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21
電話番号 03(3942)0122[代表]
おもな資料 欧文、アジア諸言語で書かれた東洋全域に関する資料、モリソン文庫、岩崎文庫、チベット文献等

3 March

CONTENTS

- 02 『子供マンガ新聞』終戦直後に発行された子供向けの新聞
今月の一冊－国立国会図書館の蔵書から
- 04 国立国会図書館 館長対談 第6回
文字・活字文化推進機構会長 福原 義春氏
読書の力、本の力
- 10 開館60周年記念貴重書展記念講演会
本の姿
- 15 電子展示会「ブラジル移民の100年」
－資料の収集から電子展示会の提供まで
- 18 書誌データの作成および提供：次のステップへ
－平成20年度書誌調整連絡会議から
- 28 国立国会図書館がつくる17冊

- 14 館内スコープ 大学図書館の日々
- 22 本屋にない本
○『お茶の水図書館の60年』
○『赤坂檜町の三万年 東京ミッドタウン前史
旧石器～長州藩下屋敷～歩兵第一連隊』

- 24 お知らせ
○平成21年度国立国会図書館職員採用試験
○NDL-OPACの検索結果が
ダウンロードできるようになりました
○国際子ども図書館展示会「ゆめいろのパレットⅣ
－野間国際絵本原画コンクール入賞作品
アジア・アフリカ・ラテンアメリカから」関連講演会
○電子展示会「ブラジル移民の100年」の提供開始
○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

- 34 入手案内 国立国会図書館 編集・刊行物

『子供マンガ新聞』 終戦直後に発行された

堀越 敬祐



図1 300号 (1952.3.9)

子供マンガ新聞は、1946年から1953年まで発行された、文字どおり子供向けの漫画新聞です。プレ創刊号となる1巻1号(1946.3.5)には「明るく、ほがらかな子供さんになりますように、子供マンガ新聞の先生方は、一しょうけんめいです」と意気込みが書かれています。終戦直後は多くの漫画雑誌や漫画新聞も創刊されましたが、本紙もその一つです。ただ、ほかの漫画新聞と異なる点は、宅配のルートを通じて全国で読まれていたこと、執筆者が当時としてはかなりメジャーな作家であったことです(図2)。このためか、ほかの漫画新聞よりも長期間にわたり発行されます。

発行は東京の子供マンガ新聞社。刊行頻度は週刊で、大きさはタブロイド判の4～8ページ建て。12号(1946.8.12)からは毎号2～4ページが色刷りでした。大きさやページ数は号により異なります。

おもな執筆者は、秋好馨、井崎一夫、近藤日出造、塩田英二郎、清水崑、杉浦幸雄、南義郎、横山隆一といった「漫画集団」のメンバーです(図1・3)。漫画集団に所属する作家は、一般紙や総合誌で大人向けの風刺漫画、時事漫画を描いていますが、本紙においては実に可愛らしく、楽しい作品を手がけています。漫画集団は、この当時から悪書追放運動*に取り組んでいて、掲載作品からは「これが優良漫画だ」という意気込みが感じられます。本紙は、漫画以外にも内外の面白いニュースや物語、グラビア、読者のお便りなどを掲載しています。日本国憲法制定、総選挙実施、東京裁判、サンフランシスコ講和条約、朝鮮戦争勃発などの政治的、社会的なイベントを紹介しているのも特徴です。

1948年に開館した当館についての記事も、幾つか目にすることができます。124号(1948.10.24)には「いち

子供向けの新聞



図2 307号 (1952.4.27)



図3 258号 (1951.5.20)

ばん読まれる社会科の本 国立国会図書館の近況」と題する記事があり、赤坂離宮（現・迎賓館）にあった仮庁舎に置かれた児童閲覧室の写真とともに「毎日、四、五十人の児童が来て本を読んでいます。社会科にかんする本がいちばん読まれ、次はマンガ、冒険小説だそうです」とあります。また、143号（1949.3.6）は巻頭ページに「あたらしい日本の子供たち 仲よく勉強 国会図書館」として、西川辰美による子供の絵と文で「ここの児童閲覧室は、毎日べんきょうの好きなよい子でまんいんです。広くて美しいお庭にはべんきょうでくたびれた頭をやすめる子供たちが楽しそうに遊んでいます」と紹介されています。このほか、初代館長の金森徳次郎のインタビュー記事やコメントを何回か掲載しています（図3）。

当館では1巻1号から1巻6号（1946.4.25）の前紙と

1号（1946.5.12）から175号（1949.10.16）まで、201号（1950.4.16）から終刊号となる358号（1953.4.26）を所蔵しています。他機関では、松本市にある川船文庫が4号（1946.6.9）から350号（1953.2.22）号を所蔵しています。いずれも欠号が多くあります。

*悪書追放運動

1950-1960年代に起こった、青少年に有害な内容の図書や雑誌を買わない、売らない、作らせないための大衆主導の運動。児童雑誌が廃刊に追い込まれたり、自治体で販売規制条例が制定されたりした。

- 1巻1号（1946.3.5）～6号（1946.4.25）の前紙 旬刊 千草書房 1号（1946.5.12）～175号（1949.10.16） 週刊 子供マンガ新聞社 <当館請求記号 VH3-Ko22/Ko23> プランゲ文庫マイクロフィルム 憲政資料室で閲覧できます。
- 201号（1950.4.16）～358号（1953.4.26） 週刊 子供マンガ新聞社 <当館請求記号 YB-863> 新聞資料室で閲覧できます。
※原紙は非常に劣化しているため、マイクロフィルムでの閲覧・複写になります。

参考文献：小野耕世、「週刊子供マンガ新聞」の時代。
『Intelligence』9, 2007.11, p.113-123 < Z71-G814 >

第6回 読書の力、本の力

いわば私は「大勢の編集者 によって編集されている私」 なんです。

今月号のお客様 文字・活字文化推進機構会長 福原 義春 氏



読書家として知られ、文字・活字文化推進機構会長として文字活字文化の普及の実現に取り組む福原義春氏に、読書の効用や読書に対する国民の意識を高めることを目的とした国民読書年についてお話を伺いました。

長尾 今日はお忙しいところありがとうございます。福原先生はものすごい読書人であるし、たくさん本を書いておられるし、読書の効用についていろいろお考えになっているのではないかと思いますので、ちょっとご披露いただければわれわれにとってもたいへん参考になります。

福原 経営者で本を読んでいる方は、多くはないけれども結構いらっしゃいますよ。それを誇示しないだけのことで、話をしてみるとびっくりするようなことがあります。

私が本を読むようになったきっかけは、一人っ子だったうえに、近くには同年代の子どもが住んでいなくて遊び相手がいない、そこでおのずと本を読むようになったというものでした。小学校は六年間同じ先生が担任になる仕組みで、そこで読書を勧められたということもあります。読んでいたのは「キンダーブック」¹とか『小公子』、『家なき子』とか少年少女向きのものだったのですが、「キンダーブック」には当時の日本画壇で中堅の方々が挿絵を描いていて、それで絵が好きになったと思います。そのあと戦争になっちゃうんです。父も私も本を大事にしている、疎開先への荷物にはまず本を入れた。疎開先では本を読むくらいしかすることがない。だんだん本を読むことが癖になる。本を読むことが習性になると生活の一部になるし、いろいろなことに役立つということがわかってくる。大学に入ってたとえばフランス語の先生からラ・ロシュフコー^aを読んでみろと言われる。

長尾 『箴言』なんて世の中のいろんなことを教えてくれますね。そういえば桑原武夫さん

の『一日一言』^bには、歴史上の重要人物の言葉が1ページに二つずつ書かれていて、たいへん面白かったですね。

福原 知らず知らずのうちに多様な物の見方、考え方を吸収している。その意味で社会人になつてずっと役に立ってきたのは『史記』^cなんですよ。徳間書店版が出た時は、次の巻が出るのが待ち遠しくなるくらい面白かった。今から考えてみると、『史記』はガバナンス（統治）の歴史なんですよ。何千年も前の人が経験したことを知らないで、今の人が同じ間違いをするのは馬鹿馬鹿しい。ある部分は楽しみながら、ある部分は実生活に役立ち、何か判断するときの材料にもなる。いわば私は「大勢の編集者によって編集されている私」なんです。

長尾 それは面白い見方ですね。私は終戦のときに小学校3年で、田舎に行っていたのですが本がまったくなかった。たまたま富山房²の百科事典があって、学校から帰ってくるとあちこちひっくり返して、ほとんどすべての項目を何度も読みましたね。今から考えれば、それで網羅的に物事を扱うのが好きになったのではないかという気がするんですね。

福原 私の疎開先で身の回りにあった本にはルビが振られていなくて、最初は読めないんですが、学校に戻ってからは漢字を知っているのであまり苦労しませんでした。

長尾 私も中学生のころ『唐詩選』なんかを声に出して読んでいましたね。何度も読んでると雰囲気はわかったりします。「読書百遍意自ずから通ず」というやつですね。

福原 明治以前の人たちは音読していたとい

a La Rochefoucauld (1613-1680)。フランスの貴族。主著『考察あるいは教訓的格言・箴言 Réflexions ou sentences et maximes morales (1665, 1678)』は、『箴言(しんげん)集』とも呼ばれる。日常における知恵や忠告等の教訓的な格言を集めたもので、1659年ころから執筆をはじめたとされる。

b 桑原武夫(1904-1988)が選んだ古今の名言を1年365日にあててまとめたもの。1956年に岩波新書で発行された。

c 中国前漢の武帝の時代に司馬遷によって編纂された中国の歴史書。全130巻。

長尾
人によっては自分の人生を変えた本、
というのがありませんよね。



Makoto Nagao

1936年三重県生まれ 博士(工学)
専門は、自然言語処理、画像処理、パターン認識、電子図書館。
京都大学工学部電子工学科卒業、京都大学総長(第23代)、独立行政法人情報通信研究機構理事長を経て、2007年4月から国立国会図書館長。

私の問題意識

本は楽しみを人に与える。深い悲しみを味わわせるとともに、また生きる勇気を授けてくれ、人を鍛えてくれる。本の世界は実に広くて深い。読書人である福原さんがこの広大な世界とどのように取り組んでこられたかを聞いたかった。また文字・活字文化推進機構会長として2010年に国民読書年に何を計画しておられるかも知りたかった。

いますね。

長尾 「平家物語」ではありませんけれど、声に出してみると体にしみこんでくる。これが黙読と違うところですよ。

福原 音読するとボケないと川島隆太先生^dがおっしゃるので(笑)。この頃は子どもには易しい本を読ませろというけれど、たまには難しい本を読ませるべきだと最近を考えているのです。スナック菓子ばかり食べていたら体格がで上がらないように。

長尾 先生の手がけた「私の百冊」³を拝見しましたが、実にいろいろなものを読まれていて驚きました。

福原 100冊選ぶのにすごく大変でした。最初の10冊20冊は時々引っ張り出してきて読むようなものですからすぐに選べるんですが、最後の10冊になるとあと10冊しか選べないわけですから悩むのです。

長尾 人によっては自分の人生を変えた本、というのがありませんよね。

福原 自分は小説よりもドキュメンタリーに影響されましたね。

長尾 私はどちらかというと哲学など小難しい本ばかり選んでは消化不良、というのを繰り返しています。

福原 気に入った本は何回も読むので、そのたびに読み方が変わります。一方で、数を読んでいるうちにAとBとの比較ができるようになる。経営者の間では、本を読む仲間同士で引き合うものがあるって、情報を交換しています。そのために集まるということはないのですが、食事の席で話題にしたりハガキをいただいたりしていますね。

何に役に立つから何を読め、というのはあま

^d 1959年生まれ。医学博士。東北大学加齢医学研究所教授。音読・単純計算が脳を鍛えるなどと述べた著書『脳を鍛える大人の音読ドリル』が一大ブームとなった。

福原
同じ本でも年齢に応じて実体験が異なれば、違う読み方ができる。

りあてにならない。しばらく経って大きな意味が出てくる。私の考えは、著者がいろいろな思想だとか体験をもっていて、それを今を生きている自分に吸収できるというものです。

長尾 いま本以外にもいろいろなメディアが出てきていますよね。本とほかのメディアを比較したときにどういうことが浮かび上がってきますか。

福原 ハリウッド全盛までの映画にはいろいろな思想が詰まっていたので、本とは別の意味で学ぶところがあった。

長尾 やはり文字を読まないで得られないものがあるのでしょうか。

福原 例えば映画なら俳優さんのキャラクターでイメージができてしまうけれど、文字の世界なら、関羽とか張飛とかいっても自分でイメージすることになる。そのイマジネーションの世界を広げるという意味でも文字の方が自由さがあるような気がします。

長尾 そうするといろいろな読み方ができる。

福原 同じ本でも年齢に応じて人生の実体験が異なれば、違う読み方ができる。同世代の人たちの中には、定年になったら読もうと思って本を買い込んでいたら、視力が落ちてしまって読む気がなくなったという人もいます。本は出た時に、旬のときに読まなければだめですね。読み手の方も、いくら忙しくても自分が旬のときがあるから読まなければいけない。忙しいのにいつ本を読んでいるのと聞かれるのですが、手当たり次第に、朝飯が終わってから仕事に行くまでの5分でも、疲れて家に帰ってきてからの10分でも時間を見つけて読めば結構はかどるのです。

長尾 最近は本がどんどん出版されていて、あれも読みたい、これも読みたいで途中まで読んだ本ばかりがたまっていきます。良書



Yoshiharu Fukuhara

1931年東京生まれ。1953年慶応義塾大学経済学部卒業と同時に株式会社資生堂入社。1987年代表取締役社長、1997年代表取締役会長を歴任。2001年、名誉会長に就任。

東京都写真美術館長、(財)かながわ国際交流財団理事長、(社)企業メセナ協議会会長、東京芸術文化評議会会長、文字・活字文化推進機構会長、全日本蘭協会名誉会長、日本経団連事業委員長、日仏経済人クラブ日本側議長、日伊ビジネスグループ日本側議長、バリ日本文化会館支援協会会長、経済人同人誌「ほほづゑ」代表世話人、ほか公職多数。

おもな著書に「部下がついてくる人・体験で語るリーダーシップ」(日本経済新聞社)、『会社人間、社会に生きる』(中央公論新社)、『文化資本の経営』(ダイヤモンド社)、『100の蘭』『101の蘭』(文化出版局)、『猫と小石とディアギレフ』(集英社)、『自分らしい仕事』があなたを変える!』(青春出版社)、『ぼくの複線人生』(岩波書店)、『変化の時代と人間の力 福原義春講演集』(ウェッジ文庫)等。趣味は洋らんの栽培、写真。

財団法人文字・活字文化推進機構は、国が制定した「子どもの読書活動推進法」(2001年)と「文字・活字文化振興法」(2005年)を有効なものとするために取り組む民間の団体。2007年に設立された。

長尾

図書館が何十年もかけて蓄積してきたことの力だと思っただけですが。

を批判的に紹介する書評誌のような、骨のある本格的な書評のシステムが日本にもあるといいのですが。

福原 日本では本の評論家がそれだけで成立できなくて、学者とか小説家が傍らに書評を書いている。

私は社長のころは決まった時間で動いていたので書店に行くことができたのですが、今はそれができなくなったので、本の友達から聞いた情報、新聞雑誌の書評それと新聞の広告で狙いを定めている。打率3割というところでしょうか。

長尾 そんなものでしょうか。

福原 タイトルと中身があまり関係ないものもありますから。今の書店は効率第一で本の並びが著者名順になってしまっているとか、ジャンル別というのが減ってきて、店頭で意外な本を見つけるということがやりにくくなった。

長尾 こんど2010年が国民読書年⁴。どういうことをしていったらいいのか、先生ご自身はどんな考えをもっておられますか。

福原 国民読書年というのは世界でもあんまり前例がないんだそうです。文字・活字文化推進機構のように、書店、出版社、取次まで幅広く一丸となって集まった組織もかつてない。これから何をするかはいろいろなことを考えています。小学校の読み聞かせ⁵は全国に広まって、やってみたら子どもたちの読書量は下げ止まった。問題はもう少し上の若い人たちで、そこをどうしようかと研究しているところなんです。フランスの出版物は低成長だけでも安定していて、インターネットは普及しているのに、国民の可処分所得のうち本に使っているお金、図書館の利用率は増えている。そこに何かヒントがあるのでは

ないか。出版の点数が増えて、家のスペースは限りがあるので、買うよりも新しい本が自由に読めるところというので図書館の利用率が上がる、というのはわかるのです。

長尾 そこは出版社が心配するところで、図書館はどうしていいかよく考えないといけないところだと思っています。国立国会図書館はこの図書館にしかない資料を調べる人を中心に考えているところですが。

福原 インターネット以外に、実際に現物にアクセスすることによって何が得られるか、ということがわかっていただけるといいですね。それはやはり、昔の雑誌を見れば、広告に何が載っていたか、広告のスタイルが何なのか、ということが大事ですよ。そういうことで、実際のコンテンツと一緒に時代を読み取ることができる。現物があることのメリットについてアピールしてはどうでしょうか。

長尾 それはありがたいヒントですね。図書館が何十年もかけて蓄積してきたことの力だと思うのですが。

福原 『月刊 PLAY BOY 日本版』が休刊になりました。私は1959年ごろから3年間くらい本国版を取っていたんですが、今でも保存してあります。イアン・フレミングだとかそうそうたる人々が短編を書いていて、ラスベガスやジャズの記事もありますが、一番面白いのが広告です。その時代にどんな車を売っていたのか、とか、2、3年前ですとどうということはありませんが、40年経ったから面白いのです。

長尾 そういうことを言ってくざるとありがたいです。書庫の資料は捨てませんから毎日増えていきます。もうどんどん場所がなくなってきています。我々だけでなく大学図書館も公共図書館もどんどん予算を減らされて

います。

福原 日本みたいに一律に予算3%減というのはあまり聞いたことがないです。

長尾 科学技術立国ということはいのですが、文化立国というのあまり言わない。

福原 OECDの学力調査⁶で、日本の成績が国語だけでなく数学も理科も下がった。読解力が下がったから理科の問題の意味がわからなくなる、と私たちは考えているのですが、理科の先生の教え方が悪いことになってしまっ、皆なかなか信じてくれない。

長尾 きちんとした読解力があれば理科もできるはずですね。

福原 長年の○×式の試験のせいで、答えを選択する以上の物の考え方ができなくなって、自由記述問題ができない。シェークスピアでも読めば、「ハムレット」ではないですが物事は単純な選択だけではないというの

はわかるはずですが(笑)。

長尾 そういう意味でも、国民読書年を教育面でもアピールする必要がありますね。

福原 2010年にはいろいろなイベントをすることになっています。真面目なことで面白くすることもできるのではないかと考えています。

長尾 今日はどうもありがとうございました。

対談を終えて

子供の頃の読書の経験が蘇ってきた。青春時代に何を讀んだかが人生にとって大切だということも思った。乱読もよいが、一つの本を何度も読むことによって、いろんなことを汲みとることができる。これを古典というのだろう。これまでの大勢の人の本によって自分が作られているという福原さんの言葉になるほどと感じさせられた。書物は一生の友である。(長尾)

用語解説

1. 「キンダーブック」

昭和2(1927)年発行の日本で初めての月刊の保育絵本。科学的視点をふんだんに取り入れ「観察絵本」ともよばれた。創刊に際し日本の幼児教育の父とよばれる倉橋惣三が編集に携わり、北原白秋、西條八十など、当代の一流の画家や童謡詩人も制作に加わった。幼稚園に直接販売する方式を編み出し、大判で刊行された。

2. 富山房(ふざんぼう)

明治19(1886)年創業の出版社・書店。『日本家庭百科事彙』全2巻(1906)をはじめ『国民百科大辞典』全15巻(1934-37)などを発行し、欧米式の百科事典方式をとり入れた。

3. 「私の百冊」

『猫と小石とディアギレフ』集英社インターナショナル2004 pp.113-126所収のエッセイ。

4. 国民読書年

衆参両院が全会一致で採択した国会決議。読書に対する国民の意識を高めるため国民読書年を定

め「政官民が協力し、国を挙げてあらゆる努力を重ねる」としている。文字・活字文化推進機構を中心に、2010年にむけての準備が行われている。

5. 小学校の読み聞かせ

2001年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」(読推法)が制定され、それをうけて、「子どもの読書活動推進基本計画」が策定された。各自治体で学校教育と図書館との連携、学校図書館の蔵書の充実、読み聞かせ・ストーリーテリングの充実が盛り込まれ、実施されている。小学校では、朝の読書や読み聞かせなど、学校教育の時間内に読書の時間を確保する試みが広がっている。

6. OECDの学力調査

OECD(経済協力開発機構)が義務教育の修了段階にある15歳の生徒を対象に行う学習到達度調査。PISA(Programme for International Student Assessment)調査ともいう。2003年以降、この調査で日本の順位が低下していることが各方面の議論となっている。

(この対談は2008年12月9日に国立国会図書館で行われました。)

開館 60 周年記念貴重書展記念講演会

本の姿

藤本 孝一



この講演会は、国立国会図書館開館 60 周年記念貴重書展とあわせ、平成 20 年 11 月 22 日、関西館で行われました。

藤本氏は古写本研究の第一人者で、文化庁主任文化財調査官として、国宝・重要文化財指定のための調査にあたり、また、財団法人冷泉家時雨亭文庫の調査を長年担当されています。それらの経験に基づいたお話をいただきました。

本とはなんだろうか

私は、本というものは記録装置だと思っています。「記録」と「装置」と二つありますが、「記録」は、本の上に書いてある文字ですね。源氏物語だったら、「いづれの御時にか…」に始まって、墨と筆でもって書かれている、その文章がどんなものかということ。それが「記録」です。

「装置」というのは装訂*、本の作り方からの観点です。物質としての本そのもの、装訂した「もの」です。この、装訂した「もの」について、私は冷泉家の財団のお手伝いをしながら、調査をさせていただいています。

本そのものの歴史

私は歴史の専門家でございます。国文だとか和歌文学の専門家ではないんですね。そこで私はどうしたらよいかと思い悩みました。

いろんな立派な文学の先生方がいらっしゃって、いろんな本をご覧になっている。ところが先生方は、「記録」、つまりどういう文字が書かれていて、それが今伝わっている文章と同じかどうか

を一生懸命研究されるのですが、本自体にはあまり興味をおもちにならなかったんですね。この装訂は綴葉装だ、粘葉装だ、とは言うけれど、やっぱり字そのものの研究を一生懸命なさる。それだったら僕は、本そのものについての歴史をやる、と思いついたんです。

重要文化財は時代が選択する

「装置」「もの」、あるいは文化財としての本。文化「財」ですから物質なんですね。国宝・重要文化財を指定するときに、伝本の中で一番良い文章の立派な本だといっても、江戸時代のものとなるとちょっと躊躇します。室町時代、平安時代に遡ったものが、いつ出てくるかもわからない。ですから、重要文化財に指定するときには、最古のもの、と規定するんです。

最古がどうして良いかということ、普通なら、いらなくなって捨てられていってしまうものが、人の選択でもって遺されて、千年間も捨てられずに現在まで伝えられている。それだけ、時代による選択を経たということで、時代が国宝・重文を指定していくんです。

本そのものの美しさ、姿があらわれる

展覧会で、絵画なら掛けてあれば全部見ることができそうですが、本は次のページを見られない。けれども、本そのものの美しさ、姿はあらわれてく

るんですね。何百年も伝えられてきたわけですから、そこに感動する。今は国立国会図書館のホームページにアクセスすれば次のページもご覧になれますが、寸法、風合いなどは、百聞は一見に如かず、やはり展示会に行って見ないといけないと思う。

本とは記録装置だと言いましたが、書かれた文字、内容にはたくさん専門家がいらっしやいますし、展示会の図録の解説もご覧いただければよいと思います。これから「装置」としての歴史を、少しお話ししたいと思います。

このあと、冊子本の成立の二つの系譜や写本の作られ方について、事例の写真を示しながらお話いただきました。

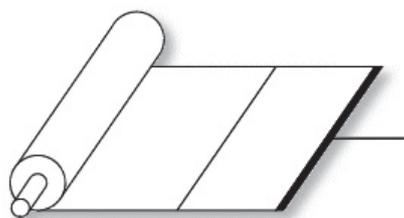
ここでは、本のさまざまな装訂を中心に、その一部をご紹介します。

「糊附・継ぐ」系統

ーはじめは布を目指して

私は装訂には二つの流れがあると考えています。一つは糊を使って継ぐもの。

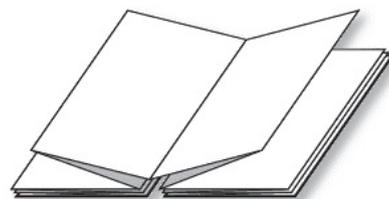
紙は絹布と同様のものを目指して改良されて



巻子本

いったと考えられます。中国では絹布・漢字・墨・筆が紀元前に成立していて、反物に文字が書かれていました。今でも、書家が漢字を書くときには、紙よりは絹が使われますね。

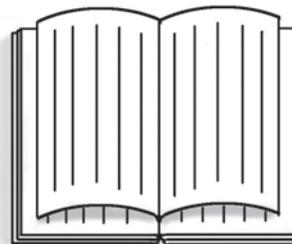
布にならなかった絹のクズを漉き船に入れて漉くと布きれになる、かわりに植物繊維を使えば紙ができる。1枚ずつの紙を糊で継いで長くすれば、布の代わりになる。これが巻子本になります。しかし、やはり最上のものは絹とされていて、わざわざ絹の文様に似せて皺を寄せた紙（大高檀紙）を、江戸幕府でも使っているんです。



折本装

巻子本の紙を折りたたむことで折本装になります。最後まで巻物を広げなくても、どこからでも読むことができます。

粘葉装は、字面を内側に折って、折山の部分を糊付けしている。折本装からの発展です。



粘葉装

「糸綴じ・重ね」系統

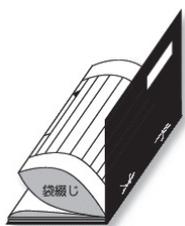
－ 1枚の紙から自然発生

もう一つは糸で綴じる系統です。

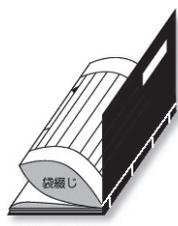
今でも、いらない紙をまとめてメモ用紙にしますが、同じように、紙を作ったとき自然発生的に、重ねて穴を開け糸で綴じることが始まったのではないかと考えています。ただし、高級なものでは巻子で作るんだ、という観念は残ります。

紙を重ねただけのものから、内側や外側に折ったり、糸と針も使ったりして、人間はいろんなことを工夫します。

字面を外側にして折ると袋装になる。現在、普通に見る本は袋装が多い。二つか四つ穴をあけて、紙縫りや糸・紐で結べば大和綴じです。

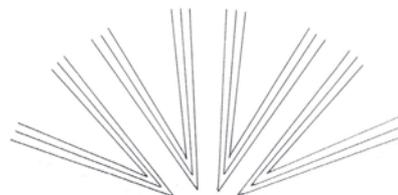


袋装大和綴じ



袋装線装綴じ（明朝綴じ）

紙を内側に折って、折り目に穴をあけて糸で綴じていったものが粘葉装。一本の糸で次々と重ねて綴じ繋いでいくことができる。糸綴じのノートと同じ形です。この装訂は、厚みのある本でもぐらつかない。字は綴じてから書いたので、その時に使っていた、木枠に糸を張った罫線も冷泉家で見つかりました。



綴葉装

簡単に速くきれいに作るのが職人の原則です。糊付けよりは糸綴じの方が誰でも簡単にできる。一本の糸を、一筆書きのように使って綴じられることを発見したのではないか。

文字を活字で組まずに1枚の版木に彫って刷り、袋装にして一本の糸で綴じれば、かなり簡単に速くきれいにできたのではないかと思います。

時代とともに変えられた装訂

今回展示してある『康富記』や『師守記』を文化庁時代に調査しました。巻子本ですが、一定の紙幅で折りあとがあって、後世折り畳んで折本にして勉強していたことがわかるわけです。使われなくなると、また巻子本にもどして保存している。

『御馬印』は、今は巻子本だけれど、丁付けが書かれていて、もとは冊子の形だったとわかる。修理のために袋装を開いたところ、元々は粘葉装で逆側に折って糊附していたのを、袋装に改装したのだとわかったというものもあります。粘葉装のほとんどは、後世、袋装に改装されています。

このような場合も、粘葉装が袋装になり、現代にまで伝わってきたという歴史があるので、現状を壊して復元ということはいけません。

本の背負った歴史があらわれる

人間というのは工夫しますので、最初に布に書いたものから、だんだんと卷子本ができて折本になっていく。折り畳んで糊をつけることで粘葉装になる。1枚の紙を外側に折ると、内側に折るという違いだけで袋装になり、綴葉装になる。

あらゆる時代に、あらゆる装訂方法は生まれてくるわけですね。それらが現在いろんな形で皆さん方の前にあらわれてきます。

今度の展示会にも、300年前、500年前の本が展示されています。その一冊一冊がいろいろ長い歴史を背負っている。それを皆さんが読み解くとおもしろくなりますね。袋装なもの、もともとは違う装訂だったんだとか、綴葉装の時、どうやって字は書いていたのか、やっぱり上から罫線をあてて書いていたんだとか。

本文については、これは世界に三つしかない本だとか、内容について研究者の解説がある。それに本の姿についての知識が加われば、さらに良い鑑賞の仕方ができるんじゃないかと思っています。本の姿をご覧になって、美術品的、文化財的に読み解いていただければ、いろんなことが一冊の本の中からあらわれてくるのです。

貴重書の内容と姿を見る

展示の慶長勅版『日本書紀』なんていうのは天皇が命令して刷ったものですね。慶長年間

1600年頃、僕たちは400年も昔の本を見られる。こんなに保存が良いってというのは、西洋にはほとんどありません。日本には本当に貴重書、重要文化財があまりにもたくさんありすぎて気づかないのです。

一冊一冊が歴史を背負っていますから、その何百年の間に、粘葉装から袋装になってみたり、卷子本になってみたり、折本になってみたり、いろんな変化をしています。本は人間が使うものですからいろんな工夫がしてある。

そういうことを、展示会で内容にプラスしてご覧いただければ、もっと違った見方ができるんじゃないかと思っています。

*装丁、装釘などとも書かれるが、本来は装訂が正しいといわれ、書誌学ではこの表記を使うことが多い。

講演会は盛況のうちに終わり、そのあとの展示会場では、取り上げられた本をその目で確かめる参加者の姿が見られました。

(ふじもと こういち 龍谷大学客員教授)

(文責：展示委員会特別展示小委員会)

大学図書館の日々



ここはカナダにあるモントリオール大学東アジア研究センター附属図書館です。その中で私は日本関係のコレクションを担当しています。

収集対象は、利用者が専らフランス語を話すので、フランス語の本です。フランス語圏ではマンガの翻訳は多いものの、日本研究書の出版点数は多くありません。なかなか研究にぴったりの資料を見つけるのが困難です。そこで英語も選択肢に加わります。すると途端に対象が広がって、今度はどれを選んだものか判断が難しくなります。こういう時はここで実際に教えている教授たちの意見が役に立ちます。今、心強い味方は比較文学の教授で、何冊も新刊書の購入依頼をしています。ありがたい限りです。

資料が到着すると、書誌を作ります。OCLC*¹のデータベースを使って、あるものはコピーして大学のデータベースに取り込みます。ないものはデータを AACR2*² で記述し、LCSH*³ で

件名、LC 分類で請求記号をつけ、データをフランス語で作成します。

こうして整えたデータと資料が私の守備範囲になります。「町奴」について知るにはどうすれば良いか。日本の選挙戦に関する資料は。日本の木乃伊^{ミイラ}について調べたい。よほど簡単なことでない限りは、この範囲の問い合わせは誰が受けても、私の元に回ってきます。利用者は大概フランス語か英語のものを求めてきます。なので、運良くそういう研究をしたフランス人などがいれば、きちんとした資料を紹介できますが、そうでないと百科事典が最後の頼みの綱ということもあります。

週に何時間かカウンターに座りますが、今度は日本関係に限らず、ありとあらゆる問い合わせが来ます。この本はどこにあるのか、パソコンはどう使うのか、今日はいつまで開いているか、こういった図書館についてのことは問題ないですが、自分が知らないこと、例えば大学のコースの取り方とか、外部から大学内部のサーバに接続する方法とかそういう話になるとお手上げです。耳も想像力も使って、最後には同僚にお願いすることになります。

(Centre d'études de l'Asie de l'Est,
Université de Montréal 派遣職員)

* 1 Online Computer Library Center
* 2 英米目録規則第2版
* 3 米国議会図書館件名標目表

電子展示会「ブラジル移民の100年」

—資料の収集から電子展示会の提供まで



電子展示会 ブラジル移民の100年

昨年2008年は、ブラジルへの集団的な移民が開始されてから、100周年の記念の年でした。関連の新聞報道やテレビ番組を見て日系移民についてもっと深く知りたくなったけれど、いきなり専門書を読むのはちょっと、という方もいらっしゃるでしょう。国立国会図書館では、ブラジル日系移民の歴史を紹介する新しい電子展示会を完成させました。それが電子展示会「ブラジル移民の100年」です。3月から当館ホームページ上で提供しています (<http://www.ndl.go.jp/brasil/>)。

この電子展示会は、ブラジル日系移民の百年の歴史を通観できるだけでなく、その歴史を裏付ける資料を画像やテキスト（文字起こし）で確認することができ、資料集としても利用できる構成です。

展示資料は、当時の新聞に掲載された移民募集広告や移住地案内のパンフレット、移民事業をめぐる官民の記録、第二次世界大戦前後の日系人社会の様子を記録した個人日記など多岐にわたります。移民の父とも呼ばれる水野龍（1859-1951）

が第1回契約移民船「笠戸丸」乗船中に記した「笠戸丸航海日記」は全文をテキスト化しました。また今年2009年は日本人アマゾン入植80周年にあたりますが、代議士の上塚司（1890-1978）が設立したアマゾニア産業研究所の当時の様子を記録したフィルムは動画でご覧になれます。

解説文とコラムは、日系ブラジル人をはじめブラジルの方々のためにポルトガル語版でも提供しています。この翻訳のほか、校閲や著作権者との連絡など、サイト作成にあたっては国内およびブラジル在住の関係者の方々に多大なご協力をいただきました。

日系ブラジル移民の百年にわたる歴史のなかで、人びとは何を思い、そして何を為してきたのか。それを知ることは、私たち日本人の今を考えるための大きな糧となるのではないのでしょうか。電子展示会「ブラジル移民の100年」が、そのきっかけになれば幸いです。

（主題情報部参考企画課、政治史料課）

日系移民関係資料のご紹介

収集の目的・経緯

当館では、昭和56（1981）年から日本人の海外移民に関する資料の収集に乗り出しました。明治元（1868）年のハワイなどへの移民以来百年以上の歴史がありながら、その歴史を跡づける資料の収集は、それまでほとんど進んでいなかったのが実情でした。特に昭和58年8月の国会議員団のブラジル・サンパウロ訪問を契機として移民資料収集の重要性が指摘された結果、昭和59年度からは新たに予算が計上され「南米移民資料収集七か年計画」（昭和59年度～平成2年度）が実施されました。この「七か年計画」の時期に収集した資料が、現在の「日系移民関係資料」の中核をなしています。

収集方法

「七か年計画」では、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、メキシコなど中南米に職員を派遣し、資料の調査と収集にあたりました。まず日系移民関係の資料館や資料室が所蔵する邦字新聞をマイクロフィルム撮影により収集したほか、図書や雑誌を収集しました。その際、複数部ある資料については1部を寄贈していただき、1部限りの資料は紙焼きコピーまたはマイクロフィルム撮影しました。現地で刊行された資料は現地に置かれて現地の人々に利用されることが重要だと考えたからです。また、チラシを配布するなどして日系人社

会に広く協力を呼びかけたところ、個人で所蔵されていた日記や写真、そのほか様々な文書を提供していただくことができました。さらに、日系人社会の歴史や様々なできごとに詳しい古老の方々に聞き取り調査をし、カセットテープに録音しました。

その後、平成5（1993）年からはハワイの移民資料収集に取りかかり、同時に北米地域での調査を行いました。平成6年を最後に現地に職員を派遣しての収集活動は終了しました。現在は、カルフォルニア大学ロサンゼルス校特別コレクション部所蔵の日系移民関係文書を撮影したマイクロフィルムを購入することにより収集しています。



左から、「ブラジル自作農移住案内」、移民募集のポスター、ブラジルで上映された日本映画のビラ、「在伯日本移民歴史調査写真」

収集した資料

資料は大きく「文書類」と「刊行物」の二つに分けられます。

「文書類」は日記・手紙・メモ・写真等の個人

文書類、協同組合などの団体の書類、公文書、聞き取りテープなどです。

「刊行物」の代表的な資料は、現地で発行された邦字新聞です。ブラジルの『パウリスタ新聞』『日伯毎日新聞』『サンパウロ新聞』、アルゼンチンの『らぷらた報知』『亜国日報』、ハワイの『布哇報知』など主要な新聞をマイクロフィルム撮影しました。現在はそのほとんどを新聞資料室で利用できます。図書・雑誌は、現地で寄贈していただいたもののほか、ジョージ・ヨシオ・山本氏の旧蔵書（ハワイ日系人関係）、キシ・ヨシオ氏の旧蔵書（アジア系移民に関する英書）のコレクションも所蔵しています。

当館ホームページの「憲政資料室の所蔵資料」の「日系移民関係資料」では、「文書類」の中で各資料群ごとにその来歴や内容を紹介しています。一部の資料群では目録のPDF ファイルを提供しています。今後も目録を再整理して新たに

http://www.ndl.go.jp/jp/data/kensei_shiryo/index.html



PDF ファイルを作成し、順次掲載していく予定です。一方「刊行物」は、和図書、洋図書、新聞・雑誌それぞれのタイトルリストのPDF ファイルを作成し掲載しています。また和図書と新聞資料室所管の新聞については、NDL-OPAC に書誌データを搭載していますので、一般の資料と同じように検索することができます。

今後の課題

今、日系移民の歴史に関心のある方の多くが、現地の移民資料の将来に強い危機感をもっています。世代交代が進み、日本語の読み書きができない人には価値がわからなくなってしまった資料が捨てられようとしているのです。かろうじて残された資料も劣化が進んでいます。今が収集の最後の機会だとも言われています。未来に日系移民関係資料を残していくために、当館も積極的にその責務を果たしていきたいと考えています。

(主題情報部政治史料課)

憲政資料室のご案内

場 所：東京本館 4 階
所蔵資料：幕末から現代にいたる政治家・軍人・官僚などが所蔵していた私文書を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」と並んで、おもに北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を所蔵しています。

書誌データの作成および提供：

－平成20年度書誌調整連絡会議から

平成20年11月28日に、国立国会図書館において平成20年度書誌調整連絡会議を開催しました。

1 書誌調整連絡会議

国立国会図書館は、国内の書誌調整および書誌データの標準化を目的として、書誌データの作成および提供に関する諸事項について書誌調整連絡会議を開き、関係諸機関と定期的に協議しています。平成12年に始まり、本年度は9回目の開催となりました。本年度のテーマは「書誌データの作成および提供：次のステップへ」です。

近年は、Googleに代表されるような検索エンジンの発達、膨大な電子情報の生産および流通によって、情報をめぐる状況が大きく変わり、書誌のもつ役割や定義そのものも新たな局面を迎えています。国立国会図書館でも、平成20年3月に「書誌データの作成・提供の方針(2008)」を策定するなど、新しい書誌データのあり方についての検討を行っています。このような状況の中、最新の動向を把握し、これまでの検討を新しいサービスの実現に結びつけていくことが重要であると考え、今回のテーマを設定しました。

会議では、このテーマを中心として、書誌作成の基準を維持する日本図書館協会(JLA)の各委員会、書誌作成を行う国立国会図書館等の機関、コメンテーターである研究者の方々といった、異なる立場からの報告があり、多角的な意見交換が

行われ、また、当館に対する意見も数多く寄せられました。

国立国会図書館では、ご指摘のあった点をふまえて、今後も、より使われる、より使いやすいシステムの構築を中心に、積極的に変革していきたいと考えています。会議での幅広い議論を今後の活動に生かし、効果的な書誌調整の実現に努めて参ります。

2 会議の概要

(1) 国立国会図書館からの報告

収集書誌部収集・書誌調整課課長補佐の本橋修が、「書誌データの作成及び提供－平成20年度的主要な動き」と題した報告をした。

平成20年4月に収集部と書誌部を統合し収集書誌部とする組織再編を行い、また、国内刊行図書整理業務では、書誌の作成に外部MARCを導入する(平成21年1月から開始)ことで作業の合理化・効率化を進めていること、NDL-OPACの改修(書誌データのダウンロード機能の実装等)や雑誌記事索引新規採録記事のRSS配信等によって、情報提供の改善を図っていくことなどを紹介した。

(2) 日本図書館協会の委員会からの報告

目録委員長の中井万知子(収集書誌部司書監)が、「国際目録規則に関するIFLA(国際図書館連盟)専門家会議」で検討している「国際目録

次のステップへ



原則覚書」の最終草案へ投票したこと、「英米目録規則第2版」に替わる新しい目録規則として準備されているRDA（Resource Description and Access: 資料の記述とアクセス）の検討を行っていることを報告した。

次に、分類委員長の金中利和氏が「日本十進分類法（NDC）新訂10版」の作成作業を進めていること、『日本の図書館』付帯調査として、「図書の分類に関する調査」を日本全国の図書館を対象に実施したことを報告した。

最後に、件名標目委員長の柴田正美氏が、全国図書館大会で2回にわたり分科会を行ったこと、Googleなどの検索エンジンを参考にしつつ、件名検索の新たな方法を検討する必要があることを報告した。

(3) 各図書館からの報告

東京都立中央図書館の大申純子氏から、「都立図書館改革の具体的方策」の重点事業である「蔵書の充実」のもとで資料費は増加しているが、整理の一元化等で効率化をはかっているとの報告が

あった。また、「闘病記文庫」への件名付与、東京都ホームページの収集とメタデータ付与の実験等についても紹介があった。

早稲田大学図書館の多田智子氏からは、早稲田大学図書館システム「WINE」における書誌および所蔵レコードの管理状況やOCLC（Online Computer Library Center）*へのデータ提供、古典籍総合データベースの状況等について報告があった。

*総合目録World Catを提供している。

(4) 海外の動向

当館の司書監中井万知子が、第74回IFLAケベック大会への参加報告を行った（本誌573（2008年12月）号p.16）。

(5) テーマ「書誌データの作成・提供の方針：次のステップへ」に関する報告

【国立国会図書館の新方針の進め方】

収集書誌部副部長の吉本紀が、平成20年3月に策定した「国立国会図書館の書誌データの作成・提供の方針（2008）」の概要、これまでの実施事項、

進め方と課題を中心に報告した。この方針は、書誌データの開放性、情報検索システムの使いやすさの向上など六つの方針を定め、方策を具体化しつつ5年間での実現を目指すもので、平成20年度には外部MARCの導入、NDL-OPACの改善等が実施された。今後は、「全国書誌、総合目録、蔵書目録などの書誌サービスの全体的な体系化」「次期システムで実現をはかる情報検索機能の改善や多言語化」「書誌調整として実現すべき標準化、国際的な連携」の三つの大きな枠組みを設定し進めていくことを紹介した。

【次世代目録所在情報サービスをめぐって】

国立情報学研究所 (NII) からは、細川聖二氏がNACSIS/CAT、NACSIS/ILLの現状と次世代の検討について紹介した。平成20年3月に公開した中間報告では、「資料・システム・運用」の三つの問題点が設定され、「電子情報資源（電子ジャーナルの収集方法等）」「API（他のウェブサービスへのデータ提供方法等）」「共同分担方式の最適化（参加機関の役割の整理等）」といった5項目を中心に検討中であり、平成21年の最終報告で具体的な実現に向けた方向性を示す予定であると説明した。

(6) コメンテーターの報告および意見交換

【国立国会図書館の書誌作成・提供について】

上田修一氏（慶應義塾大学文学部教授）から、「国

立国会図書館が作成した目録は信頼性が高いが、NDL-OPACの利用が、国立国会図書館の意義や役割を考えると利用が少ないのではないかと。図書館自体の知名度を上げ利用の促進を図るべきではないか」との指摘があった。

渡邊隆弘氏（帝塚山学院大学人間文化学部文化学科准教授）から、「LC（米国議会図書館）では責任と負担をほかの図書館に分散させる方向に向かっているが、日本では集中に向かう方向ではないか。ほかの図書館にもっと使われる書誌を作成する体制が望まれる」というコメントがあった。

また、北克一氏（大阪市立大学大学院創造都市研究科教授）から、「国立国会図書館のデータベースは、階層構造が複雑で利用しにくく、NDLが提供しているほかのデータベースとのつながりもわかりにくい」という指摘があった。

【今後の書誌調整のあり方について】

根本彰氏（東京大学大学院教育学研究科教授）から、「これまでの『出版』『文献』といった概念が揺らいでいる中で、図書館がどこまでを対象としていくのかを考えておく必要がある。書誌コントロール政策についても大きなプランが必要であろう」というコメントがあった。

宮澤彰氏（国立情報学研究所情報社会相関研究系教授）からは、「パブリックサービスに日が当たっているが、書誌調整は図書館を支える裏方の

仕事であるのでしっかりやっていく必要がある。
今後の書誌調整は、紙の出版物の書誌の質を保つていく方向と、ウェブ上の資源を含むすべての知的資源の組織化を目指す方向の二つがある」とのコメントがあった。

また、目録規則に関して、RDA が日本の書誌コントロールでどこまで有用であるか、「日本目録規則 (NCR)」の改訂をする際にどこまで国際基準に合わせるか、などについて意見が交わされた。

【今年度の国会図書館の動きについて】

「収集書誌部に再編されたことが、全国書誌と総合目録の関係を見直すきっかけともなり、国立国会図書館が全国の書誌コントロールの中でどういう位置づけになるかの議論が進むことを期待している」との意見があった。

また、外部 MARC の導入に関して、「どういう目的で行うのか」「書誌データの質は変わらないのか」との質問に対し当館からは、「業務の再編は、作業効率を高めるために行う。外部 MARC は記述部分を用い、標目はこれまでどおり付与するので、サービス水準は変わらない」と回答した。

書誌データのダウンロードに関しては、「自分の図書館の目録作成に生かせるのではないか」といった、成果を期待するコメントも寄せられた。

(収集書誌部収集・書誌調整課)

●平成 20 年度書誌調整連絡会議 外部出席者

上田 修一	慶應義塾大学文学部教授
大串 純子	東京都立中央図書館サービス部 資料管理課整理係目録管理担当係長
金中 利和	日本図書館協会分類委員長
北 克一	大阪市立大学大学院創造都市研究科教授
柴田 正美	帝塚山大学心理福祉学部長・教授 日本図書館協会件名標目委員長
白髪 正代	横浜市中央図書館調査資料課資料係
多田 智子	早稲田大学図書館資料管理課長
根本 彰	東京大学大学院教育学研究科教授
細川 聖二	国立情報学研究所学術基盤推進部 学術コンテンツ課図書館連携チーム専門員
宮澤 彰	国立情報学研究所情報社会相関研究系教授
渡邊 隆弘	帝塚山学院大学人間文化学部文化学科准教授 日本図書館協会目録委員会・件名標目委員会委員

●会議の詳しい内容は 3 月末にホームページに掲載する予定です。

・「書誌調整連絡会議記録集」
(<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/conference.html>)
国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)
トッパー「図書館員の方へ」－「書誌データの作成および提供」－「書誌データの基本方針と書誌調整：書誌調整連絡会議」

●「書誌データの作成および提供」のページには、次のようなコンテンツもありますのでご覧ください。

・「NDL 書誌情報ニュースレター」
(http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_newsletter/index.html)
国立国会図書館の書誌データの作成と提供に関するニュースやトピックを、まとめてお知らせするニュースレターです。年 4 回発行。
・「What's 書誌調整」
(<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/whats.html>)
書誌調整の定義・目的から具体的な目録や分類、メタデータ等について、解説しています。

本屋に ない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

お茶の水図書館の60年

財団法人石川文化事業財団編
〒101-0062 千代田区神田駿河台2丁目9番地
2007.12 121頁 A4 <当館請求記号 UL314-J5 >

「出版事業から得た利益を、読者に還元したい」。雑誌『主婦之友』創刊者である石川武美の志を受けて築かれたお茶の水図書館は、1947年に設立され、一昨年60周年を迎えた。本書はその歩みをまとめたものである。内容は大きく分けて、年表、写真、そして職員の事例報告という、3部構成である。

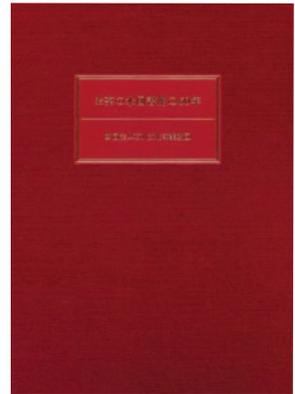
第1部の通史は、第2次世界大戦中の開館準備期間まで遡り、図書館界・社会の動向と照らし合わせて沿革を追えるように配慮されている。日米安保問題や学園闘争のあおりで続いた臨時休館・練上げ閉館。阪神・淡路大震災を契機に、書架の固定等、見直された安全対策。そこには一図書館として、時代の動きに対応してきた姿がある。同時に、この年表は業務日誌を基に編まれたというだけあり、日常的变化も書き留められている。例えば、戦後の物価の急上昇と連動した度重なる入館料の改訂。閲覧室の照明が白熱灯から蛍光灯へ、また暖房が練炭からガストーブへ替わった日付などまでが克明に記載されており、戦後日本の社会の変遷がうかがえる。

こうした半世紀を超える歴史をもつ同館は、長らく女性を対象とする私立の公開図書館として活動してきた。その活動に区切りをつけ、「女性・生活・実用」を掲げて所蔵資料を再選書し専門図書館化したのは、2003年10月のことである。創設の地への移転を機とするこの再出発は、当然ながら多大な労力を要した。それでも方針の転換に踏み切った経緯は、第3部に詳しい。いかにして新しい構想を立てたか。

数か月という短期間で約3分の1にまで蔵書を絞り込み、その再構築を成しえた背景の種明かしに加え、移転作業の苦労話といったエピソードも盛り込まれている。

ところで、見て読める年史を目指した本書は、文字の記録だけではなく、多くの写真も収録している。草創期から現在に至る図書館の情景はもちろんのこと、利用案内や広報誌、さらには過去に取り上げられた記事の切抜きまでが掲載され、当時の様子を伝えている。蔵書紹介にも頁が割かれており、表紙の色使いがにぎやかな女性雑誌・生活実用書と、徳富蘇峰旧蔵の成實堂文庫を中心とする古典籍・古文書が対照的である。この二つの資料群はそれぞれ特色を異にし、運営においても2部門制が敷かれ、相通ずる点はないように思われる。しかし、どちらも劣化・破損し易いという共通点が見出される。これらの資料群を蔵書の柱にすえ、保存は現在と未来の利用を保障するためになされるとの理念に沿った独自の取組みも、写真つきで紹介されており、資料保存に関する問題意識の高さがみてとれる。

最後に、本書はすべての職員が携わって編さんされたという。その根底には、歴史を知ること、これからのあるべき図書館像を見すえ、共有しようとする意識がある。過去を振り返る年史でありながら、明日に目を向けた印象を読み手に与えるのはそれゆえであろう。



みつしま ゆり
(光島 有里)

赤坂檜町の三万年 東京ミッドタウン前史

旧石器～長州藩下屋敷～歩兵第一連隊

港区立港郷土資料館編

〒108-0014 港区芝5-28-4

2008.2 121頁 A4

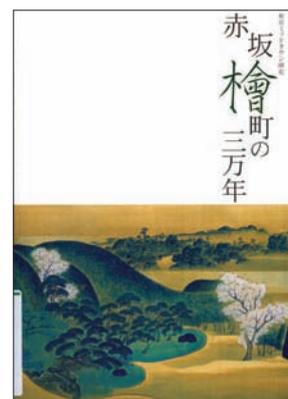
<当館請求記号 GC67-J16>

東京ミッドタウンは、旧防衛庁跡地の再開発によって生まれた、まだ新しい街である。都内で最も高いビルである「ミッドタウン・タワー」を中心として、オフィス・ホテル・美術館・ショッピングモールなどが集まっており、平日・休日を問わず、多くの人でにぎわっている。しかし、この場所が、古くは明治維新や二・二六事件といった、歴史を変えたできごとに深いつながりがあったことを知る人は、多くないであろう。本書は、その東京ミッドタウンがある一帯、赤坂9丁目（旧地名は赤坂檜町）の歴史を、まさに「掘り起こした」一冊である。平成20年3月に行われた同名の展示会の図録であるが、単独の読み物としても十分に楽しめる内容になっている。

赤坂檜町は、江戸時代に長州藩毛利家の屋敷があった場所であり、東京ミッドタウンの建設に先駆けて、東京都埋蔵文化財センターが発掘調査を行った。しかし、発掘を進めるうち、毛利家にまつわる遺物だけでなく、これまでに判明していた港区の歴史を1万年以上遡らせる石器の出土につながったのである。本書の第一章は、旧石器時代から、古墳時代に至るまでの遺物の出土を紹介している。

第二章は、江戸時代の長州藩麻布下屋敷の紹介である。檜並木を擁する緑の深い庭園は江戸の人々に広く知られており、そこから「檜屋敷」の名が

付いたという。この章では、萩焼の陶器などの出土品とともに、日記や図、庭園を描いた絵によって、江戸初期から明治維新までの変遷を見ることができる。また、巻末の「資料編」には3篇の論文が収録



されており、発掘調査のより詳しい内容や、檜屋敷の時代背景を知ることができる。江戸末期、元治元（1864）年に、長州征討に伴い檜屋敷は幕府によって没収され、建物は破壊されてしまったが、それでも発掘の結果からは、藩邸での生活は比較的質素なものであったということまでわかるというのは興味深い。

明治4（1871）年、新政府は、檜屋敷跡地を軍用地とし、その後陸軍歩兵第一連隊を置いた。第三章で紹介されているのは、陸軍から米軍宿舎、防衛庁へと続く、赤坂檜町の近代史である。この中で最大のできごとは、二・二六事件であるといってよいであろう。首相官邸・陸軍大臣官邸を襲撃した兵士たちは、この赤坂檜町の兵舎から出発したのだ。

東京ミッドタウンには、檜へのオマージュを込めたデザインもあるという。本書に続けて、『東京ミッドタウン』『東京ミッドタウンのアートとデザイン』といった資料を読んで赤坂檜町の今の姿を知るのも良いが、実際に足を運び、数百年ぶりに誰もが自由に入れるようになったこの場所で、歴史に思いをはせるのも一興であろう。

さわだ だいすけ
(澤田 大祐)

お知らせ

■平成 21 年度

国立国会図書館職員採用試験

次のとおり実施します。

- 職務内容 調査業務・司書業務・一般事務等の館務
- 勤務地 東京都（東京本館・国際子ども図書館）・京都府（関西館）
（転勤があります）
- 試験の概要（詳細は試験案内またはホームページで必ずご確認ください）

種類	大学卒業程度		高校卒業程度
	I 種	II 種	III 種
受験資格の概要※	昭和 55 年 4 月 2 日～昭和 63 年 4 月 1 日生まれ（昭和 63 年 4 月 2 日以降生まれでも、大学卒業または卒業見込みであれば可）	昭和 55 年 4 月 2 日～昭和 63 年 4 月 1 日生まれ（昭和 63 年 4 月 2 日以降生まれでも、大学・短大・高専卒業または卒業見込みであれば可）	昭和 61 年 4 月 2 日～平成 4 年 4 月 1 日生まれ（高校卒業・卒業見込み以上、ただし四年制大学卒業・卒業見込みは不可）
受付期間	平成 21 年 4 月 6 日（月）～4 月 23 日（木） （消印有効）		平成 21 年 8 月 24 日（月）～9 月 4 日（金） （消印有効）
1 次試験	平成 21 年 5 月 23 日（土）		平成 21 年 9 月 26 日（土）
会場	1 次試験は東京および京都で行います。2 次試験以降は東京のみです。		

※日本の国籍をお持ちでない方、国会職員法第 2 条の規定により国会職員となることができない方は受験できません。

○受験申込書および試験案内の入手方法

国立国会図書館東京本館および国立国会図書館関西館で配布しています。

郵送での請求は東京本館でのみ受け付けます。封筒の表に受験する試験の種類を朱書きし（例：「I 種・II 種請求」）、返信用封筒（角型 2 号）を同封して以下の請求先に送ってください。返信用封筒には宛て先を明記し、切手（140 円）を貼ってください（I 種と II 種は共通の書式です）。

○お問い合わせ先・資料請求先

国立国会図書館 総務部人事課任用係

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1

電話 03（3506）3315（直通）

○URL <http://www.ndl.go.jp/jp/employ/index.html>

国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）トップ
－ 「採用情報」

お知らせ

■ NDL-OPAC の検索結果がダウンロードできるようになりました

2月24日から、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）の検索結果がダウンロードできるようになりました。文献リストの作成などにご活用ください。

○ダウンロード方法

検索結果の一覧表示画面右上にある「ダウンロード」ボタンをクリックすると、その画面に表示されている書誌のデータがタブ区切り形式（tsv）でダウンロードできます。表示された件数が一度にダウンロードできる件数です。

○おもなダウンロード項目

【一般資料】 タイトル、責任表示、出版者、出版年、シリーズ名、内容細目、ISBN、ISSN、入手条件・定価、件名、NDC、所蔵事項ほか、全26項目

【雑誌記事索引】 論題、著者、雑誌名、出版者・编者、巻、号、通号、刊行年月日、ページ、ISSNほか、全16項目

【規格・テクニカルレポート類】 規格番号、レポート番号、タイトル、責任表示、出版年、形態、注記ほか、全13項目

【点字図書・録音図書全国総合目録】 タイトル、責任表示、所蔵館、製作者、形態、原本の注記、原本のISBN/ISSNほか、全24項目

The screenshot shows the NDL-OPAC search results interface. At the top right, there are navigation links: 書誌検索(一般), 書誌検索(拡張), 著者名検索, 件名検索, NDC検索, 雑誌記事索引, 規格・レポート類, 点字・録音図書全国総合目録, 利用の手引き, and NDL-OPACトップページ. A 'ログイン' button is also present. Below the navigation, the search criteria are shown: 検索条件: 所蔵館=全館 and (著者・编者=国立国会図書館書誌部) and 結果件数: 和図書 4件. On the right side, there are buttons for '絞り込み/再検索' and '最初から検索'. At the bottom of the search results area, there are dropdown menus for 'タイトル順', '正順', and '20件', followed by a '再表示' button and a 'ダウンロード' button (highlighted with a red circle). A red text box below the dropdowns states: '表示された件数が一度にダウンロードできる件数です。' Below this, the results are listed under '和図書 1-4(4件)'. The list contains four items, each with a link to the record page.

詳しくは「書誌データ Q&A」*および NDL-OPAC の「利用の手引き」をご覧ください。

* http://www.ndl.go.jp/jp/data/opac_syoshiqa.html

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>) トッパー「資料の検索」
— 「蔵書検索・雑誌記事検索：書誌データ Q&A」



お知らせ

国際子ども図書館展示会
「ゆめいろのパレットⅣー
野間国際絵本原画コンクール
入賞作品 アジア・アフリカ
・ラテンアメリカから」
関連講演会

国際子ども図書館展示会「ゆめいろのパレットⅣー野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから」をより深く理解していただくため、講演会を行います。

- 日 時 4月25日(土) 14:00～16:00
- 会 場 国際子ども図書館 3階ホール
- 講 師 ごうど まち 神戸 万知氏(翻訳家)
- 演 題 「ラテンアメリカと子どもの本」
- 対 象 中学生以上 *定員100名
- お申込方法

事前申込制(先着順)です。次のいずれかの方法でお申し込みください。

[来館申込み] 国際子ども図書館 3階ホールカウンター

[往復はがき] 〒110-0007 台東区上野公園12-49

国際子ども図書館「4月25日講演会申込み」係

[電子メール] dream425@kodomo.go.jp

タイトル・件名欄に「4月25日講演会申込み」とお書きください。

※往復はがき、または電子メールで申し込む場合は、1名様につき

1通ずつ、名前(ふりがな)、年齢、住所、電話番号をご記入ください。

○お問い合わせ先

国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課

電話(03)3827-2053(代表)

展示会のご案内

開催期間 3月14日(土)～7月5日(日)

休館日 月曜日、こどもの日を除く国民の祝日・休日、
資料整理休館日(毎月第3水曜日)

開催時間 9:30～17:00

展示会、講演会は、いずれも入場無料です。詳細はホームページをご覧ください。

国際子ども図書館ホームページ：<http://www.kodomo.go.jp/>

お知らせ

■ 電子展示会 「ブラジル移民の100年」 の提供開始



日本語画面



ポルトガル語画面

3月4日に、電子展示会「ブラジル移民の100年」の提供を開始しました。2008年は日本人のブラジルへの集団的な移民が開始されてから100周年、2009年はアマゾンへの入植が開始されてから80周年にあたります。

この電子展示会では、日系移民の歴史を時代ごとに7章に分けて解説し、当館で所蔵する移民関係資料を中心に、一部外部機関の資料を含めて約200点の資料をご紹介します。また、様々なトピックで楽しんでいただけるコラムも用意しました。当館の移民資料については、本号の「電子展示会「ブラジル移民100年」－資料の収集から電子展示会の提供まで」(pp.15～17)も併せてご覧ください。

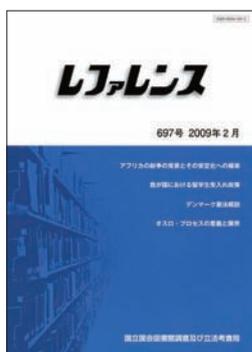
○ URL <http://www.ndl.go.jp/brasil/>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp>) トップ
－「電子展示会」－「ブラジル移民の100年」

○ お問い合わせ先

国立国会図書館 主題情報部参考企画課情報サービス第二係
電話 03-3506-5260 (直通)

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 697号 A4 86頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・アフリカの紛争の背景とその安定化への模索
- ・我が国における留学生受入れ政策
- ・デンマーク憲法概説
- ・オスロ・プロセスの意義と限界

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

03 (3523) 0812

国立国会図書館がつくる 17 冊

国立国会図書館では、さまざまな刊行物を編集し、それらを冊子、ホームページ、メールマガジンなどで提供しています。

例えば、

- **立法調査資料** 国会の図書館として国会議員の立法活動を補佐するため、幅広い分野にわたる政策課題の制定経緯の調査や外国法令の翻訳などを行い、その成果を報告書にまとめています。
- **研究資料** 唯一の国立図書館として国内の図書館をサポートするため、国内外の図書館に関する情報を幅広く提供し、また、図書館に関する研究を行い、その成果を公表しています。
- **展示会図録** 豊富な蔵書を紹介する展示会を行い、図録を作成しています。
- **広報誌** 当館の業務や所蔵資料を紹介する広報誌を作成しています。

ここでは、その中から 17 種類の刊行物を詳しく紹介します（そのほとんどが内容を国立国会図書館ホームページでご覧になれます）。当館が編集・刊行した資料のうち、販売しているもののリストは 34～38 ページに掲載しています。

■立法調査資料

『レファレンス』



- ページ数 平均 120 ページ
- 創刊年 1951 年
- 判型 A4
- 刊行頻度 月刊（毎月 15 日刊行）
- 内容 国政課題の中でも、中長期的なテーマについての論文集。歴史的経緯、海外の制度・政策もふまえた本格的な分析が特長。

- **編集方針** 『調査と情報－ISSUE BRIEF－』では扱えない中長期的な国政課題を幅広く選択。
- **対象とする読者** 国会議員、国会関係者、行政・司法各部門関係者、関心を有するすべての方々
- **編集の裏側** 昭和 26 年創刊の伝統ある刊行物です。今年 1 月に表紙を刷新しました。昔からのロゴを使い伝統を継承しつつ青色でまとめ、知性と力強さを表現しています。5 月の第 700 号では、特別企画を予定しています。調査及び立法審査局の調査員が、政治・経済・社会など担当する分野の執筆をします。
- **入手方法** 関係先配布／書店
- **価格** 1,050 円
- **ホームページ**
http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/reference_index.html

■ 699（2009 年 4 月）号の目次

- ・ 中山間地域の諸問題
- ・ 議会の情報発信と情報通信技術（ICT）
- ・ 大阪府における中小企業の事業承継をめぐる動向
- ・ 諸外国の書籍再販制度

『外国の立法 立法情報・翻訳・解説』



- ページ数 「季刊版」約 200 ページ
「月刊版」約 50 ページ
- 創刊年 1962 年
- 判型 A4
- 刊行頻度 季刊（年 4 回）・月刊（年 8 回）
- 内容 季刊版は外国法令の翻訳、制定経緯の解説等を収録。月刊版は外国の立法動向や各国議会の対日動向等をコンパクトにまとめたもの。

- **編集方針** 国政審議に役立つ情報を正確、迅速にわかりやすく紹介。
- **対象とする読者** 国会議員、国会関係者、行政・司法各部門関係者、関心を有するすべての方々
- **編集の裏側** 海外立法情報調査室・課が企画・執筆・編集を担当。世界の様々な地域を担当する各調査員が、各国の法令議会資料、新聞雑誌、インターネット、外国への問い合わせなどあらゆる手段をつくして最新の情報を調べ、紹介しています。国会審議では、外国の制度を参考にすることが多いため、法体系や社会制度の異なる外国の法律の内容や制定の背景をどうしたらわかりやすく紹介できるかに日々心を砕いています。
- **入手方法** 関係先配布／書店
- **価格** 239 号は 1,575 円（号により異なる）
- **ホームページ**
http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/legislation_index.html

■ 季刊版 239（2009 年 3 月）号の目次

- ・ フランスにおける拘禁施設虐待防止法制
- ・ ドイツのエネルギー及び気候変動対策立法（1）
- ・ イタリアの移民法 ・ ロシアの緊急経済対策の現状
- ・ 韓国におけるインターネットへの法的規制
- ・ 中国に駐在する外国人記者の取材活動について
- ・ オーストラリア・2008 年初めての住宅購入のための貯蓄者口座法

凡例

- ページ数 (平均のページ数)
- 創刊年または刊行年 ■ 判型 ■ 刊行頻度
- 内容 ■ 目次 (既刊の最新号または次号の内容・目次)
- 編集方針 ■ 対象とする読者 ■ 編集の裏側
- 入手方法 (書店の問い合わせ先は 34 ページをご覧ください) ■ 価格
- ホームページ (ホームページに内容を掲載している場合、そのアドレス)

『調査資料』



- 創刊年 1960 年
- 判型 A4
- 刊行頻度 不定期刊
- 内容 青少年問題、外国人問題など分野横断的な国政の基本的事項に関するテーマを多角的に分析した調査報告など。

- 『青少年をめぐる諸問題』(調査資料 2008-4) の内容
教育格差、食育、若年者の就業支援、携帯電話からのインターネット利用、児童権利条約などをテーマに 14 本の論文で構成。

- 編集方針 一見シンプルな政策課題でも、実際は様々な側面からのアプローチが必要なことがあるため、そのような政策課題を多角的・総合的にとらえられるように構成。
- 対象とする読者 国会議員、国会関係者、行政・司法各部門関係者、関心を有するすべての方々
- 編集の裏側
各専門分野の調査員から成るプロジェクトチームを立ち上げ、その調査成果を掲載していますが、執筆者が多く、内容も多岐にわたるので、読み物としての統一感を失わないように気を付けています。
- 入手方法 関係先配布／非売品
- ホームページ
http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/document_index.html

『基本情報シリーズ (調査資料)』



- ページ数 平均 50 ページ
- 創刊年 2008 年
- 判型 A4
- 刊行頻度 不定期刊
- 内容 今年度から始まった調査資料の中の新シリーズ。重要な国政課題について、国内外の制度、データなどを比較・一覧できる基本資料集。

■ 既刊 3 号のタイトル

- ① 『諸外国の付加価値税 (2008 年版)』
- ② 『主要国の各種法定年齢』
- ③ 『わが国が未批准の国際条約一覧』

- 編集方針 国政審議の参考になるよう、見やすく、調べやすい誌面構成を。
- 対象とする読者 国会議員、国会関係者、行政・司法各部門関係者、関心を有するすべての方々
- 編集の裏側
主要国の制度を比較するため、当館の蔵書やインターネット情報などの中から、データを探し、背景事情を調べています。「基本情報シリーズ」は、当館の調査員が語学力を駆使して丹念に調査した成果をまとめたものです。当館ならではの資料集に仕上がっています。
- 入手方法 関係先配布／非売品
- ホームページ
http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/document_index.html

『調査と情報 - ISSUE BRIEF -』



- ページ数 平均 10 ページ
- 創刊年 1986 年
- 判型 A4
- 刊行頻度 不定期刊
- 内容 開会中の国会で審議が見込まれる政策課題について、背景・経緯・問題点等を簡潔に解説したレポート。

- 1 月の通常国会冒頭に刊行した 3 号のタイトル
『国政課題の概要 - 第 171 回国会 -』
『平成 21 年度予算案の概要』
『平成 21 年度税制改正案の概要』

- 編集方針 忙しい国会議員の方々が、短時間で要点を理解できるよう、簡潔で読みやすい誌面に。
- 対象とする読者 国会議員、国会関係者、行政・司法各部門関係者、関心を有するすべての方々
- 編集の裏側
日々、国会議員からの調査依頼に回答している調査員が、国会での審議が予想される事項について調査し、執筆しています。国会審議に合わせて刊行するので時間との勝負になることもしばしばです。
- 入手方法 関係先配布／非売品
- ホームページ
http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/issue_index.html

■研究資料

『カレントアウェアネス』



- ページ数 平均 31 ページ
- 創刊年 1979 年
- 判型 A4
- 刊行頻度 季刊
- 内容 国内外の近年の図書館事情やトピックスを紹介する記事、図書館情報学分野とその隣接分野における研究動向のレビュー記事などを掲載する情報誌。

■最新号 (298 号) の目次

- ・「男性図書館員」の肖像
- ・読むなら飲むな？ 図書館における飲料問題
- ・ウィキペディアにおける情報の質 (IQ) 向上の仕組み
- ・図書館による API の公開 - PORTA の事例から
- ・中国における Million Book Project - 中国の大学図書館の資料電子化戦略
- ・「Bibliothek 2012」～ドイツの図書館振興の現在～
- ・図書館における紙資料の実物保存

- 編集方針 時宜に適った専門性の高いトピックを、詳しくかつ分かり易く伝える。
- 対象とする読者 図書館員、図書館情報学研究者、学生、図書館関係者、一般
- 編集の裏側 取り上げるトピックは、図書館情報学の有識者を含む編集企画会議で議論し、決定しています。トピックの種類や取り上げる国をバランスよく取り混ぜた構成になるよう、心がけています。執筆は、そのテーマに造詣の深い研究者、実務者、当館の職員が担当しています。
- 入手方法 関係先配布／書店
- 価格 420 円 (271 号まで 315 円)
- ホームページ <http://current.ndl.go.jp/ca>

『カレントアウェアネスE』



- 創刊年 2002 年
- 刊行頻度 年 22 回
- 内容 図書館および図書館情報学に関する興味深いプロジェクトや報告書の紹介、政策や法律の動向、インターネットの最新技術まで最新のトピックをコンパクトにお伝えするメールマガジン。

■最新号 (144 号) の目次

- ・米国を中心に“Twitter”を活用する図書館増加中。
- ・研究評価を意識した新しい学術雑誌評価指標の模索
- ・オープンソースを活用し共同で目録作成を - biblios.net
- ・ネット上の違法・有害情報への対応に関する検討会の最終報告
- ・研究図書館が置かれている環境の分析 (米国)
- ・2009 年 ALA 冬季大会 < 報告 >

- 編集方針 図書館業界のフレッシュな話題を、簡潔な解説とともにお届けする。
- 対象とする読者 図書館員、図書館情報学研究者、学生、図書館関係者、一般
- 編集の裏側 ブログ形式のニュース速報「カレントアウェアネスR」(毎営業日随時更新) で取り上げたトピックのうちでも特に注目しておくべきものを、硬軟取り混ぜて選び、記事にしています。主に当館の職員が執筆を担当しています。
- 入手方法 メールマガジン
- ホームページ <http://current.ndl.go.jp/cae>

『図書館研究シリーズ』



- ページ数 平均 241 ページ
- 創刊年 1960 年
- 判型 A4
- 刊行頻度 不定期刊
- 内容 当館が実施したシンポジウムやセミナー報告、図書館および図書館情報学に関する研究等の論集。

■『米国の図書館事情 2007』(2008 年 10 月刊行) の内容 米国の図書館事情について様々な観点から考察する論集。

- 編集方針 当館が実施したシンポジウム等の内容や研究成果の共有を目指す。
- 対象とする読者 図書館員、図書館情報学研究者、学生、図書館関係者、一般
- 編集の裏側 『米国の図書館事情 2007』は、研究者の方々の協力のもと、製作した研究論集です。米国で活躍しているライブラリアンの方も含め、のべ 50 人強が執筆しています。
- 入手方法 関係先配布／書店
- 価格 3,255 円 (号により異なる)
- ホームページ <http://current.ndl.go.jp/series>

凡例

- ページ数 (平均のページ数)
- 創刊年または刊行年 ■ 判型 ■ 刊行頻度
- 内容 ■ 目次 (既刊の最新号または次号の内容・目次)
- 編集方針 ■ 対象とする読者 ■ 編集の裏側
- 入手方法 (書店の問い合わせ先は 34 ページをご覧ください) ■ 価格
- ホームページ (ホームページに内容を掲載している場合、そのアドレス)

『図書館調査研究レポート』



- ページ数 平均 128 ページ
- 創刊年 2003 年
- 判型 A4
- 刊行頻度 不定期刊
- 内容 当館が実施した図書館および図書館情報学に関する調査研究報告書。

- 『子どもの情報行動に関する調査』(2008 年 6 月刊行)の内容 日本の子どもの情報行動に関する知見をさまざまな観点から整理しています。

- 編集方針 館種を超えて各図書館にとって、またこれからの図書館運営に有益な調査研究を行い、その研究成果の共有を目指す。
- 対象とする読者 図書館員、図書館情報学研究者、学生、図書館関係者、一般
- 編集の裏側 調査研究は当館の企画立案に基づき、外部有識者からなる研究会の主導で実施しています。報告書の執筆もこの研究会のメンバーが行っています。
- 入手方法 関係先配布／非売品
- ホームページ <http://current.ndl.go.jp/report>

『参考書誌研究』



- ページ数 平均 154 ページ
- 創刊年 1970 年
- 判型 A5
- 刊行頻度 半年刊
- 内容 図書館員のレファレンスや研究者の調査研究に役立つ専門書誌、解題、資料研究、資料紹介等。

■ 第 69 号の目次

- ・「憲政資料中の戦前期朝鮮・台湾・中国東北部関係資料」
- ・「国立国会図書館所蔵満鉄文書－概要と主要文書案内－」
- ・「外地で活躍した図書館人・林靖一：略伝と著作一覧」
- ・「科学技術関係逐次刊行物の遠隔複写サービスにおける利用動向－利用者種別、刊行年代、インパクトファクター等の観点からの分析－」ほかに資料紹介 1 点、図録 1 点掲載

- 編集方針 主題情報を発信しレファレンス業務の発展に積極的な役割を果たす。
- 対象とする読者 図書館員、研究者、一般
- 編集の裏側 レファレンス業務を担当する各課の編集委員からなる編集委員会において、テーマ・執筆者の選定、査読等を行っています。現在は当館職員による専門的な論考が中心ですが、平成 21 年度発行分からより幅広い読者へもアピールできるように内容、誌面のリニューアルを行います。
- 入手方法 関係先配布／書店
- 価格 3,150 円 (号により異なる)

『国際子ども図書館児童文学連続講座講義録』



- ページ数 平均 167 ページ
- 創刊年 2005 年
- 判型 A4
- 刊行頻度 年刊
- 内容 児童サービス担当図書館員等を対象に 2004 年から国際子ども図書館で実施している児童文学連続講座の講義録。

■ 絵本の楽しみ (2) -アメリカ絵本の展開-の目次

- ・草創期－ワンダ・ガッグ以前
- ・開花期－第二次世界大戦未まで
- ・発展期－第二次世界大戦後
- ・最盛期－モーリス・センダック その 1 / その 2
- ・非日常の世界－物語る手法のからくり
- ・参考図書の紹介
- ・絵本ギャラリーの紹介

- 編集方針 講座に参加しなかった方にもわかりやすい記述を心がける。講義で紹介された当館所蔵資料を多く掲載する。
- 対象とする読者 図書館関係者、児童書や児童図書館に関心がある学生・一般
- 編集の裏側 職員が講義のテープ起こしをして、翌年に講義録として刊行します。講座に参加しなかった方にも講義の成果と雰囲気をお届けできるように、編集に当たっては、図や絵の説明を加えたり、講師が紹介した資料のリストを作ったりします。
- 入手方法 関係先配布／書店
- 価格 平成 19 年度講義録 1,890 円 (号により異なります)
- ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/event/text/bnum/text2007-01.html>

■展示会図録

『国立国会図書館開館 60 周年記念貴重書展 学ぶ・集う・楽しむ』



- ページ数 115 ページ
- 刊行年 2008 年
- 判型 A4
- 内容 当展示会で展示した資料 77 点について、その画像および解説を掲載した図録。

- 編集方針 展示した資料の画像とその解説を掲載し、貴重書展の全貌を紹介。
- 対象とする読者 研究者、一般
- 編集の裏側 貴重書展は、開館 60 周年の節目に開催する展示会にふさわしい、当館の特色ある蔵書を広く紹介できるテーマとしました。図録の作成にあたっては掲載する画像はできるだけ大きくし、解説も分かりやすくするよう努めました。掲載する資料の選定、執筆等は展示会の企画班員が担当しました。
- 入手方法 関係先配布／書店
- 価格 1,800 円

■ 目次

- ・ 国立国会図書館の貴重書
- ・ 第 1 部 学ぶ ・ 第 2 部 集う ・ 第 3 部 楽しむ
- ・ 重要文化財 ・ 国立国会図書館の重要文化財
- ・ 書名索引、人物略歴、List of Exhibits、参考文献

■案内資料

『びぶろす -Biblos』



- 創刊年 1950 年
(1998 年からホームページに掲載)
- 刊行頻度 四季版
- 内容 行政・司法各部門の支部図書館と専門図書館の連絡情報誌。支部図書館および専門図書館の折々の状況を掲載。

- 編集方針 支部図書館にの運営に役立つ連絡・情報誌。
- 対象とする読者 行政・司法各部門支部図書館職員および専門図書館員、当館職員
- 編集の裏側 支部図書館および専門図書館の方々の業務に活かせるように心がけています。今後はさらに内容の充実を図るため、編集会議を活性化させる予定です。
- ホームページ
<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/biblos/index.html>

■ 最新号（平成 20 年冬号）の目次

- ・ カナダ・ケベックシティにて得たものー IFLA2008 参加報告
- ・ 政策分析力の充実・強化を図る議会図書館・議会調査局ー
- ・ カナダ議会図書館予算分析部門とアメリカ議会調査局の現状など

“NDL Newsletter”



- 創刊年 1962 年
(1997 年からホームページに掲載)
- 刊行頻度 隔月刊
- 内容 国立国会図書館の英文による広報誌。業務内容の紹介、国際連携の動向に関する最新情報、所蔵資料の紹介などを掲載。

- 編集方針 英語を使用する方を対象に、当館の取組みについて広く知らせる。
- 対象とする読者 海外の図書館関係者や日本に関心のある方、国内の英語使用者
- 編集の裏側 世界中の方に当館についてお知らせし、興味を持っていただけるよう、新しいサービスのお知らせや、『国立国会図書館月報』に掲載された記事等を英語で発信しています。特に、“Selections from NDL Collections” は貴重書等ユニークな当館資料を鮮やかな画像と共に紹介している、一番の人気コーナーです。
- ホームページ
http://www.ndl.go.jp/en/publication/ndl_newsletter/index.html

■ 最新号（165 号）の目次

- ・ Bibliographic data in the digital age – ten years of catalogs –
- ・ Online Gallery of the National Diet Library
- ・ The 6th Mutual Visit Program between the National Diet Library and the National Assembly Library of Korea

凡例

- ページ数 (平均のページ数)
- 創刊年または刊行年 ■ 判型 ■ 刊行頻度
- 内容 ■ 目次 (既刊の最新号または次号の内容・目次)
- 編集方針 ■ 対象とする読者 ■ 編集の裏側
- 入手方法 (書店の問い合わせ先は 34 ページをご覧ください) ■ 価格
- ホームページ (ホームページに内容を掲載している場合、そのアドレス)

『アジア情報室通報』



- ページ数 平均 20 ページ
- 創刊年 2003 年
- 版型 A4
- 刊行頻度 季刊
- 内容 関西館アジア情報室の広報誌。アジアの出版・図書館事情紹介、新着参考図書目録、レファレンスツール紹介などを掲載。

■ 最新号 (第 6 巻第 4 号) の目次

- ・ カザフスタンの出版事情と図書館—出張報告
- ・ 平成 20 年度アジア情報研修概要報告
- ・ 新着参考図書目録 (2008.7 ~ 2008.9)
- ・ レファレンスツール紹介⑬ 1945 年以前発行の朝鮮の新聞を調べる

- 編集方針 最新のアジア資料・情報への的確な道案内をする。
- 対象とする読者 アジア関係資料・情報を扱う図書館員、アジア地域を対象とする研究者
- 編集の裏側 新着参考図書目録の解題、レファレンスツール紹介など、企画、執筆、編集のほとんどすべてをアジア情報課員が行っています。出版界や図書館界の動向のほか、選書、レファレンスなど図書館の実務に役立つ情報を掲載できるよう編集しています。
- 入手方法 関係先配布/非売品
- ホームページ http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/asia/publication/asia_pub.html

『国際子ども図書館の窓』



- ページ数 平均 55 ページ
- 創刊年 2001 年
- 判型 A5
- 刊行頻度 年刊
- 内容 国際子ども図書館の 1 年間の活動内容や研究成果等を紹介する年報。催物や会議の報告、統計、国内外の児童書事情等。

■ 最新号 (9 号) の内容

- ・ 展示会「チェコへの扉—子どもの本の世界」
- ・ 平成 20 年度児童サービス連絡会—学校図書館への支援の実際と課題—
- ・ 子どもと本をつなぐ人々との出会い—ミュンヘン国際児童図書館 & 第 31 回 IBBY 世界大会見聞記—
- ・ イランの児童図書 ・ 数字で見る! 国際子ども図書館ほか

- 編集方針 年報と紀要の性質を併せもたせる。海外事情を盛り込む。
- 対象とする読者 図書館関係者、児童書や児童図書館に関心がある学生・一般
- 編集の裏側 国際子ども図書館の編集委員が内容を企画し、業務に関することは担当課の職員が、海外の児童書事情や調査・研究報告については主に館外の方が執筆します。第 6 号 (2006 年 3 月刊) からホームページで全文閲覧可能になりました。
- 入手方法 関係先配布/非売品
- ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/profile/publications/mado/index.html>

『国立国会図書館月報』



- ページ数 平均 38 ページ
- 創刊年 1961 年
- 版型 A4
- 刊行頻度 月刊 (毎月 20 日刊行)
- 内容 国立国会図書館の広報誌。事業内容や最新の動向、館長と識者との対談、座談会、所蔵資料の紹介などを掲載。

■ 577 (2009 年 4 月) 号の内容

- ・ 今月の一冊 『十六画漢之模写縮像並ニ悪縁起』
- ・ 国立国会図書館 館長対談 第 7 回スウェーデン国立図書館長ゲンナー・サーリン氏
- ・ ラシード・ウッディーン国際会議の講演から
- ・ 学術録音テープのご紹介
- ・ 国立国会図書館平成 21 年度予算

- 編集方針 わかりやすく読みやすい、ためになる月報。
- 対象とする読者 図書館関係者、図書館や文化的なことに関心がある学生・一般
- 編集の裏側 業務に関することならその業務の担当課が、資料の紹介や、書評コーナー「本屋にない本」は有志の職員が執筆します。表紙は貴重書画像データベースから季節に合う図柄を選択。読者に知ってほしいこと、読者が知りたいことをタイムリーに掲載できるよう、半年先を見すえて編集しています。
- 入手方法 関係先配布/書店
- 定価 525 円
- ホームページ <http://www.ndl.go.jp/jp/publication/geppo/>

現在入手できる刊行物を、1当館案内資料、2基本書誌(日本全国書誌を含む)、3専門書誌、4立法調査資料、5研究資料、6執務参考資料(日本全国書誌のマニュアル、著者名典拠を含む)、7展示会資料ほか、の順に掲載しました。

入手をご希望の際は各発売所にお問い合わせください。なお一部の刊行物は国立国会図書館内売店でも販売しています。

刊行物一覧	当館案内資料	35	研究資料	37
	基本書誌(日本全国書誌を含む)	35	執務参考資料	38
	専門書誌	36	(日本全国書誌のマニュアル、著者名典拠を含む)	
	立法調査資料	36	展示会資料ほか	38

記載例	国立国会図書館五十年誌	本編	平11	A4	793頁	8,400円	①
	書名	刊行年/頻度	規格	頁数等	価格	発売所	

●印は平成20年2月以降刊行のもの。◎印は機械可読資料。特に記載のないものは税込みの価格。

発売所一覧	①英文法令社	〒102-0093	千代田区平河町2-4-7	03(5276)5955
	②大空社	〒115-0044	北区赤羽南2-6-7	03(3902)2731
	③風間書房	〒101-0051	千代田区神田神保町1-34	03(3291)5729
	④紀伊國屋書店	〒153-8504	目黒区下目黒3-7-10	03(6910)0508
	⑤汲古書院	〒102-0072	千代田区飯田橋2-5-4	03(3265)9764
	⑥国立国会図書館内売店	〒100-8924	千代田区永田町1-10-1	03(3581)2331(代表)
	⑦出版ニュース社	〒101-0051	千代田区神田神保町2-40-7	03(3262)2076
	⑧中央印刷株式会社	〒104-0032	中央区八丁堀3-17-12	03(3551)7035
	⑨日本図書館協会	〒104-0033	中央区新川1-11-14	03(3523)0812
	⑩早川図書	〒151-0072	渋谷区幡ヶ谷3-51-5	03(3378)0590
	⑪丸善	〒103-8224	中央区日本橋3-9-2	03(3272)3878
	⑫山越	〒151-0051	渋谷区千駄ヶ谷3-12-18	03(5413)7778
	⑬雄松堂出版	〒112-0012	文京区大塚3-42-3	03(3943)5791

1

当館案内資料

国立国会図書館の役割や活動について紹介する資料です。

国立国会図書館月報	月刊	A4(564号までA5)	525円(522号まで231円)		⑨
絵はがき					
国立国会図書館(資料編)	平19	ハガキサイズ	8枚組	550円	⑥
国立国会図書館(建物編)	平19	ハガキサイズ	8枚組	550円	⑥
国立国会図書館五十年史 本編	平11	A4	793頁	8,400円	⑨
◎国立国会図書館五十年史/資料編	平13	CD-ROM		3,990円	⑨
国立国会図書館50年のあゆみ(写真集)	平10	A4	93頁	5,040円	⑨

2

基本書誌

国立国会図書館の蔵書を検索する際の基本となる書誌です。
国内で刊行された出版物の目録(日本全国書誌)を含みます。

(1) 図書目録

冊子体目録

国立国会図書館所蔵 児童図書目録

1981	昭59	B5	1,084頁	5,250円	⑨
1986	昭62	B5	1,346頁	7,875円	⑨
1987～1991	平4	B5	1,358頁	15,291円	⑨
1992～1996	平9	B5	1,693頁	21,000円	⑨

CD-R版

◎JAPAN/MARC(M)〔日本全国書誌(図書)〕

週1回更新 CD-R 年420,000円 ⑨

◎JAPAN/MARC(M) 年間累積版(昭和52年～各年1枚)

CD-R 各420,000円 ⑨

◎JAPAN/MARC CD-R版 明治期

国立国会図書館蔵書目録 明治期 平6 CD-R 420,000円 ⑨

◎JAPAN/MARC CD-R版 大正期

国立国会図書館蔵書目録 大正期 平11 CD-R 420,000円 ⑨

◎JAPAN/MARC CD-R版 昭和前期

国立国会図書館蔵書目録(昭和元～24年3月) 平11 CD-R 420,000円 ⑨

◎JAPAN/MARC CD-R版 児童図書遡及版(1912～76)

国立国会図書館所蔵 児童図書目録 平11 CD-R 420,000円 ⑨

◎JAPAN/MARC CD-R版 遡及版(1948～55)

国立国会図書館蔵書目録(昭和23～30年) 平4 CD-R 420,000円 ⑨

◎JAPAN/MARC CD-R版 遡及版(1956～68)

国立国会図書館蔵書目録(昭和31～43年) 平4 CD-R 420,000円 ⑨

◎JAPAN/MARC CD-R版 遡及版(1969～76)

国立国会図書館蔵書目録(昭和44～51年)

科学技術編	昭59	CD-R	420,000円	⑨
経済産業編	昭60	CD-R	420,000円	⑨
社会・労働・教育編	昭61	CD-R	420,000円	⑨
政治・法律・行政・議会・法令資料編	昭61	CD-R	420,000円	⑨
歴史・地理編	昭62	CD-R	420,000円	⑨
学術一般・宗教・哲学編	昭63	CD-R	420,000円	⑨
言語・文学編	昭63	CD-R	420,000円	⑨
芸術編	平元	CD-R	420,000円	⑨
簡易整理資料編	平元	CD-R	420,000円	⑨

CD-R版

◎J-BISC〔日本全国書誌(図書)〕カレント版(平成4年～)

年6回更新 CD-ROM 年147,000円 ⑨

◎J-BISC 遡及版'48(1948-68)					
国立国会図書館蔵書目録(昭和23-43年)	平8	CD-ROM		241,500円	⑨
◎J-BISC 遡及版'69(1969-1983)					
国立国会図書館蔵書目録(昭和44-58年)	平2	CD-ROM		378,000円	⑨
◎J-BISC 遡及版'84(1984-1991)					
国立国会図書館蔵書目録(昭和59-平成3年)	平11	CD-ROM		241,500円	⑨
◎J-BISC 総合索引版(1948-1996)	平11	CD-ROM		42,000円	⑨

DVD版

◎J-BISC DVD版更新版〔明治期～2007年〕	平19	DVD-ROM			⑨
J-BISCカレント版利用契約者価格			単体利用210,000円	ネットワーク利用315,000円	
新規利用契約者価格			単体利用504,000円	ネットワーク利用609,000円	
J-BISC DVD版・J-BISCカレント版利用契約者価格			単体利用84,000円	ネットワーク利用126,000円	
J-BISC DVD版利用契約者価格			単体利用201,600円	ネットワーク利用243,600円	

(2) 逐次刊行物目録

CD-R版

◎JAPAN/MARC(S)〔日本全国書誌(逐次刊行物)〕	年2回更新	CD-R		年420,000円	⑨
-------------------------------	-------	------	--	-----------	---

(3) 雑誌記事索引

◎国立国会図書館雑誌記事索引 カレント版	年25回更新	CD-R		年297,150円	④
◎国立国会図書館雑誌記事索引 全件累積版(1948-2003年3月)	平16	ハードディスクまたはDAT		1,134,000円	④
◎国立国会図書館雑誌記事索引 年間累積版(2003年度版～)		CD-R		各378,000円	④
◎国立国会図書館作成 雑誌記事索引データ カレント版	年25回更新	CD-R		年315,000円	⑪
◎国立国会図書館作成 雑誌記事索引データ 年間累積版(2004年度版～)		CD-R		各315,000円	⑪
◎国立国会図書館作成 雑誌記事索引データ 遡及版(1948-2004年3月)	平20	USBメモリ		945,000円	⑪

3

専門書誌

当館の所蔵資料を中心に、テーマに沿った文献を検索するための書誌です。

◎日本法令英訳書誌(FD版)	平10	フロッピーディスク1枚・説明書14枚		2,625円	①
国立国会図書館所蔵 古活字版図録	平元	A4	451頁	25,486円	⑤
明治・大正・昭和 翻訳文学目録	昭34	B5	779頁	16,800円	③
◎NDL CD-ROM Line 点字図書・録音図書全国総合目録	年2回更新	CD-ROM	初年度63,000円	次年度以降年42,000円	⑨
国立国会図書館所蔵 蘆原英了コレクション目録					
第1巻 洋書編 第1分冊 舞踊	昭57	B5	219頁	4,500円	⑩
第1巻 洋書編 第2分冊 シャンソン・演劇・サーカス	昭58	B5	381頁	7,800円	⑩
第2巻 楽譜編	昭60	B5	768頁	18,000円	⑩
第5巻 補遺編 簡易整理資料	平14	B5	112頁	9,000円	⑧

4

立法調査資料

国政審議のために作成している資料のうち、頒布しているものです。

レファレンス	月刊	A4(602号までA5)	-	1050円	⑨
			(674号まで832円、625号まで829円)		
レファレンス 記事索引 401～500	平4	A5	62頁	520円	⑨
レファレンス 記事索引 501～600	平13	A5	62頁	520円	⑨

外国の立法 立法情報・翻訳・解説(208号まで『外国の立法』) ※下記以前の号については直接発売所までお問い合わせください。

232	アメリカ合衆国の連邦緊急事態管理庁FEMAの機構再編 他	平19	A4	144頁	1,575円	④
233	アメリカ合衆国におけるいじめ防止対応－連邦によるアプローチと州の反いじめ法制定の動き 他	平19	A4	199頁	1,575円	④
234	ドイツの滞在法－「外国人法」からEU「移民法」へ 他	平20	A4	279頁	1,680円	④
●235	英国2004年ドメスティック・バイオレンス、犯罪及び被害者法 他	平20	A4	224頁	1,680円	④
●236	米国のワーキング・プア対策 他	平20	A4	185頁	1,575円	④
●237	アメリカ情報公開法の改正－2007年政府公開法 他	平20	A4	190頁	1,575円	④

5 研究資料

図書館に関する調査や研究の報告書、会議録などです。

カレントアウェアネス	季刊(271号まで月刊)			－	420円	
		A4(271号までB5)			(271号まで315円)	⑨
参考書誌研究	半年刊	A5		3,150円(64号3,675円、63・62号3,150円)		⑨
参考書誌研究(復刻版)		A5	全10巻・別冊	－	105,000円	②
図書館研究シリーズ						
No.35 図書館における防災計画／非来館型サービス利用実態調査	平10	A5		324頁	5,250円	⑨
No.36 特集 国立国会図書館における研究・研修機能の充実に向けて－国立図書館としての役割－	平11	A5		273頁	3,465円	⑨
No.37 特集 国の情報と図書館－行政情報の電子化を中心として－	平14	A5		238頁	3,360円	⑨
No.38 デジタル環境下におけるILL、ドキュメント・デリバリーとその運用基盤	平17	A4		213頁	2,100円	⑨
No.39 スマトラ沖地震・津波による文書遺産の被災と復興支援－平成17年度国立国会図書館公開セミナー記録集－	平18	A4		134頁	2,310円	⑨
電子情報時代の全国書誌サービス 第1回書誌調整連絡会議記録集	平13	A5		76頁	945円	⑨
書誌コントロールの課題 第2回書誌調整連絡会議記録集	平14	A5		78頁	945円	⑨
ネットワーク系電子出版物の書誌調整に向けて メタデータの現況と課題 第3回書誌調整連絡会議記録集	平15	A5		128頁	1,260円	⑨
名称典拠のコントロール 第4回書誌調整連絡会議記録集	平16	A5		161頁	1,365円	⑨
件名標目の現状と将来－ネットワーク環境における主題アクセス 第5回書誌調整連絡会議記録集	平17	A4		77頁	1,365円	⑨
文化資産としてのウェブ情報 ウェブ・アーカイビングに関する国際シンポジウム記録集	平15	A4		140頁	1,575円	⑦
「出版文化と図書館」－デジタル時代の知の行方－ 国立国会図書館開館50周年記念シンポジウム記録集	平11	A5		98頁	1,155円	⑨
政府情報の流通と管理 国立国会図書館支部図書館制度50周年記念シンポジウム記録集	平11	A5		107頁	1,365円	⑨
21世紀の国立図書館 国際シンポジウム記録集	平9	A4		222頁	2,415円	⑨
図書館新世紀 国立国会図書館関西館開館記念シンポジウム記録集	平15	B5		131頁	1,575円	⑨
資料保存シンポジウム講演集						
第1回 蔵書の危機とその対応	平2	A5		88頁	1,835円	⑨
第3回 保存のための協力－日本で、世界で－	平5	A5		127頁	1,529円	⑨

第4回	資料保存とメディアの変換－マイクロフォーム化を中心に－	平6	A5	162頁	1,529円	⑨
第5回	図書館資料の共同保存をめぐる－現状と展望－	平7	A5	131頁	1,529円	⑨
第6回	コンサベーションの現在－資料保存修復技術をいかに活用するか－	平8	A5	115頁	1,529円	⑨
第7回	保存環境を整える－厳しい気候、各種災害から資料をいかに守るか－	平9	A5	187頁	2,100円	⑨
第8回	紙！未来に遺す	平10	A5	84頁	1,470円	⑨
第9回	電子情報の保存－今われわれが考えるべきこと－	平11	A5	91頁	1,260円	⑨
第10回	アジアをつなぐネットワーク－保存協力のこれから－	平12	A5	104頁	1,365円	⑨
	平成17年度児童文学連続講座講義録	平18	A4	161頁	1,470円	⑨
	●平成19年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「絵本の愉しみ(2)－アメリカ絵本の展開－」	平20	A4	173頁	1,890円	⑨

6 執務参考資料

日本全国書誌のマニュアル、分類表・著者名典拠録・件名標目表などです。

JAPAN/MARCマニュアル	単行・逐次刊行資料編	第1版	平14	B5	183頁	2,100円	⑨
JAPAN/MARCマニュアル	典拠編	第1版	平15	B5	187頁	2,100円	⑨
◎JAPAN/MARC(A)〔著者名典拠〕		年2回更新	CD-R		420,000円	⑨	
	レファレンス協同データベース事業データ作成・公開に関するガイドライン	平18	A4	41頁	16,800円	⑨	
	レファレンス協同データベース事業調べ方マニュアルデータ集	データと解説	平19	A4	151頁	1,890円	⑨

7 展示会資料ほか

国立国会図書館で行った展示会の図録や資料の紹介などです。

囲碁・将棋文化史展	その伝来から近代まで	昭63	B5	79頁	1,050円	⑧
日本の議会	100年	平2	A4変	147頁	2,250円	⑧
大漫画展		平3	B5	54頁	2,600円	⑧
人と蔵書と蔵書印－国立国会図書館所蔵本から－		平14	B5	332頁	6,615円	⑬
ドキュメント	戦後の日本	平6～10	A4	1～45巻 各5巻毎セット	150,000円	②
●国立国会図書館開館60周年記念貴重書展	学ぶ・集う・楽しむ	平20	A4	115頁	1,800円	⑫

CONTENTS

- 02 Book of the month - from NDL collections
Kodomo manga shimbun
- a children's newspaper published in the early postwar years
- 04 Talks with the Librarian of NDL (6)
Mr. Yoshiharu Fukuhara, Chairman of the Characters Culture Promotion Organization
Power of reading, power of books
- 10 Lecture meeting on the commemorative exhibition "Rare books of the National Diet Library - The 60th anniversary"
Transition of Japanese books: from scrolls to booklets
- 15 Electronic exhibition "100 anos de imigração japonesa no Brasil (100 years of Japanese immigration to Brazil)"
- from acquisition of materials to provision by the electronic exhibition
- 18 Creation and provision of bibliographic data: to the next steps
- report of the conference on bibliographic control FY2007
- 28 Seventeen titles from the NDL publications
- 14 Tidbits of information on NDL
Work at a university library
- 22 Books not commercially available
· *Ochanomizu toshokan no 60-nen*
· *Akasaka Hinoki-cho no sanman-nen: Tokyo*
Middo-taun zenshi: kyusekki - Choshuhan
shimoyashiki - hohei daiichi rentai
- 24 < Announcements >
· Announcement of the employment examinations for FY2009
· Search results of the NDL-OPAC can be downloaded
- 26 · Lectures related to the Exhibition at the International Library of Children's Literature "Palette of Dream Colours IV: Winning Works of the 16th Noma Concours for Picture Book Illustrations from Asia, Africa, and Latin America"
· Electronic exhibition "100 anos de imigração japonesa no Brasil (100 years of Japanese immigration to Brazil)" now available
· Book notice - publications from NDL
- 34 How to obtain publications from NDL

国立国会図書館月報

発行所 国立国会図書館
編集者 網野光明
責任者 網野光明
東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

平成21年3月号 (No.576)

平成21年3月20日発行 定価525円
(本体500円)

発売 社団法人日本図書館協会
東京都中央区新川1-11-14
電話 03 (3523) 0812 (代表)
FAX 03 (3523) 0842
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社平文社

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜すして転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp> - 「刊行物」 - 「国立国会図書館月報」)でご覧いただけます。



「千代田之大奥 雛拝見」から 部分
楊洲周延〔画〕 明治29（1896）
錦絵（35.3 × 23.5cm）3枚続
（『千代田の大奥』所収）＜寄別 8-5-2-1＞

国立国会図書館月報

平成21年3月20日発行（毎月1回20日発行）
（3月号通巻576号）

発売：社団法人日本図書館協会 定価525円（本体500円）